

南区制 80 周年記念
第 43 回

ボイス・オブ・ユース

青少年の主張

YOKOHAMA
YOUTH
MENTOR

横浜市青少年指導員 シンボルマーク

南区青少年指導員協議会

凡 例

- 1 本作文集は、南区青少年指導員協議会主催の「ボイス・オブ・ユース」事業に応募された作文のうち、入選した作文を収録したものです。
- 2 本作文集は、青少年の率直な意見・思いを忠実に反映させています。
ご理解とご配慮をお願いいたします。
- 3 一部の作品については、読みやすくするため句読点・段落等をご本人と先生の確認のうえ整理しています。

南区制 80 周年記念 『第 43 回ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）』 の発刊にあたって

.....

南区青少年指導員協議会 会長 山崎 直宏

ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）は今年、第 43 回目を迎えました。

これも小・中学校の校長先生を始め、諸先生方の深いご理解とご協力の賜物と、誌面をお借りして感謝し、お礼申し上げます。

また、作文集発刊にあたりまして、今年も心強いご支援をいただきました団体、企業の皆さまにも感謝とお礼を申し上げます。

今年は、「南区制 80 周年」にちなんだテーマを加え、「ルールとマナー」「自由課題」の 3 つのテーマを設定し、区内の多くの青少年の皆さんから、多数の作文応募をいただきました。

新型コロナはまだまだ終息には至っていませんが、今年は、表彰式、作文発表に加えて、観客もコロナ前のように多数の来賓の方々をお呼びし、さらに、受付、司会、会場案内等、子供たちのボランティアによる当日の運営も以前通り復活させることが出来ました。

180 余名の青少年指導員は、青少年の率直な思いに触れ、約 2 か月にわたり嬉しい悲鳴をあげながら、68 編の作文を選考させていただきました。厳しい選考を経て入選されました児童・生徒の皆さん、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

私たち南区青少年指導員は、日頃から子どもたちと目線を同じくし、区内の各地域の活動の中で、地域と子どもたちのパイプ役として、子どもたちの居場所づくりのために、また地域の人材として子どもたちを育むために努力しております。

春のみなみ桜まつり、夏のふれあいキャンプ、秋のボイス・オブ・ユースと、年間をとおして児童・生徒とのふれあいの場、居場所づくり、異年齢交流の機会を提供しながら、団体行動の中での責任感、人の痛みを感じられる子どもに育てて欲しいと願っております。

結びに南区長をはじめ、連合町内会・自治会・町内会、諸先生、諸団体、各企業の皆様に改めて感謝とお礼申し上げます。

今後とも引き続きご指導、ご鞭撻を賜り、また青少年指導員全員の日頃の努力と、ここまで築いていただいた先輩方の歴史の積み重ねに感謝し、発刊にあたっての挨拶とさせていただきます。

南区制 80 周年記念 『第 43 回ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）』 の発刊に寄せて

横浜市南区長 高澤 和義

「南区制 80 周年記念 第 43 回ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）」の開催、誠におめでとうございます。

この「ボイス・オブ・ユース」は、青少年の気持ちや考え、夢などを作文にして、自由な思いを発信することができる場です。今年も約 1700 人の青少年の皆様にご参加いただいたと伺っています。

SNS などが普及し、いつでも、どこにいても、短い文章で簡単に会話ができる便利な時代になりました。その一方、自分の思いを振り返り、文章にして綴るという機会はなかなかないように思います。

自分の考えや思いに耳を傾ける、家族や友達など改めて自分の周りを見回して、思ったこと、感じたことを表現する、このような機会はとても重要で貴重なことだと考えています。

また、同年代や他学年の朗読を耳にしたり、この作文集に綴られている、飾らない、等身大の『青少年の主張』を読むことで、いつもの自分の世界から一步出て、新鮮で新しい世界観に触れることができたり、刺激を受けることができることを期待しています。

さて、今年、南区は区制 80 周年を迎えます。作文のテーマにも例年の「ルールやマナー」「自由課題」に加え、「区制 80 周年を迎えた南区について」と題して、街や家族、学校などについてご応募いただきました。夢のある未来の話や温かい家族の話など様々な作文が寄せられ、時には楽しく、時には青少年の主張にハッとしたり、感心したりと皆様のいろいろな『思い』に触れさせていただきました。

横浜市全体で「子育てしたいまち、次世代を共に育むまち ヨコハマ」の取組を進める中、この南区ボイス・オブ・ユースを通じて、次世代を担う青少年の『思い』に、大人も耳を傾け、お互いを尊重しあい、青少年の成長を地域ぐるみで見守っていきたいと考えています。

結びに、ボイス・オブ・ユースの企画・運営に御尽力いただいた南区青少年指導員協議会の皆様、御協力、御支援いただいた皆様にあらためて感謝申し上げますとともに、青少年の健全育成への取組がますます発展していくことを願いまして、発刊に寄せた挨拶とさせていただきます。

南区制 80 周年記念

第 43 回ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）実施概要

- 1 事業概要 青少年の思いや考えを文章で表現した作文を通じて、青少年の率直な声に耳を傾け、お互いに思いや考えを理解することで、青少年の健全育成を図ります。
- 2 募集期間 令和 5 年 8 月 1 日～8 月 28 日
- 3 対象 南区内在住・在学の小学校 3～6 年生、中学生、高校生、一般（20 歳まで）
- 4 募集テーマ ①区制 80 周年をむかえた南区について
（私の街・私の学校・私の家族など）
②ルールとマナーについて（スマホ・ゲーム・お酒・たばこ・薬物など）
③自由課題
- 5 主催・共催 主催 南区青少年指導員協議会 / 共催 南区役所
- 6 協賛 日本濾水機工業株式会社 横浜南中央ロータリークラブ
横浜弘明寺商店街協同組合 横浜南陵ロータリークラブ
株式会社ジェイコム湘南・神奈川横浜テレビ局
横浜南ロータリークラブ 横浜橋通商店街協同組合
横浜市南区薬剤師会 南区連合町内会長連絡協議会
- 7 応募総数 1,696 編（うち入選数 68 編）

〈内訳〉

テーマ	小学生		中学生・高校生・一般	
	応募数	うち入選数	応募数	うち入選数
区制 80 周年をむかえた南区について	56	9	108	7
ルールとマナーについて	117	5	476	8
自由課題	472	19	467	20
合計	645	33	1,051	35

(編)

8 選考会

(1) 1 次選考会

9 月 2 日に青少年指導員により、1 次選考会を実施。

(2) 2 次選考会

9 月 6 日～18 日で各地区において、2 次選考会を実施。

(3) 調整会議

10 月 5 日に 68 編が入選作品に決定しました。

南区制 80 周年記念 第 43 回ボイス・オブ・ユース入選者一覧 小学生の部

テーマ 1: 区制 80 周年をむかえた南区について
(私の街・私の学校・私の家族など)

6 ページ

	氏 名	学 校 名	学 年
1	馬 場 詩 文	横 浜 市 立 南 吉 田 小 学 校	3 年
2	渡 邊 孝 基	横 浜 市 立 南 吉 田 小 学 校	4 年
3	渡 邊 佑 基	横 浜 市 立 南 吉 田 小 学 校	4 年
4	谷 平 煌	横 浜 市 立 六 つ 川 台 小 学 校	4 年
5	西 村 翠	横 浜 市 立 日 枝 小 学 校	5 年
6	鹿 間 莉 愛	横 浜 市 立 永 田 台 小 学 校	6 年
7	鈴 木 栞 花	横 浜 市 立 日 枝 小 学 校	6 年
8	糸 佑 真	横 浜 市 立 南 小 学 校	6 年
9	中 井 純 平	横 浜 市 立 六 つ 川 台 小 学 校	6 年

テーマ 2: ルールとマナーについて
(スマホ・ゲーム・お酒・たばこ・薬物など)

14 ページ

	氏 名	学 校 名	学 年
1	大 谷 愛	横 浜 市 立 永 田 台 小 学 校	4 年
2	西 田 莉 衣 咲	横 浜 市 立 南 小 学 校	5 年
3	安 達 遼 太	横 浜 市 立 南 小 学 校	6 年
4	ルイズ アミラ マイコ	横 浜 市 立 六 つ 川 西 小 学 校	6 年

テーマ 3: 自由課題

18 ページ

	氏 名	学 校 名	学 年
1	栗 原 かん な	横 浜 市 立 永 田 台 小 学 校	3 年
2	山 田 幸 彦	横 浜 市 立 南 吉 田 小 学 校	4 年
3	齋 藤 琉 成	横 浜 市 立 六 つ 川 台 小 学 校	4 年
4	趙 風 兮	横 浜 市 立 六 つ 川 台 小 学 校	4 年
5	加 藤 柚 希	横 浜 市 立 永 田 台 小 学 校	5 年
6	狩 野 晴 花	横 浜 市 立 南 小 学 校	5 年
7	任 熙 玥	横 浜 市 立 石 川 小 学 校	6 年
8	海 老 塚 智 咲	横 浜 市 立 永 田 小 学 校	6 年
9	木 村 真 緒	横 浜 市 立 永 田 小 学 校	6 年
10	阿 部 風	横 浜 市 立 藤 の 木 小 学 校	6 年
11	星 原 葵	横 浜 市 立 藤 の 木 小 学 校	6 年
12	金 野 未 侑	横 浜 市 立 別 所 小 学 校	6 年
13	音 澤 佑 香	横 浜 市 立 南 小 学 校	6 年
14	塩 田 優 駿	横 浜 市 立 南 小 学 校	6 年
15	富 山 大 空 翔	横 浜 市 立 南 吉 田 小 学 校	6 年
16	兪 玥 婷	横 浜 市 立 南 吉 田 小 学 校	6 年
17	尾 崎 友 風	横 浜 市 立 六 つ 川 小 学 校	6 年
18	桑 島 姫 花	横 浜 市 立 六 つ 川 小 学 校	6 年
19	小 林 流 碧	横 浜 市 立 六 つ 川 台 小 学 校	6 年
20	草 野 実 希	横 浜 市 立 六 つ 川 西 小 学 校	6 年

南区制 80 周年記念 第 43 回ボイス・オブ・ユース入選者一覧 中学生・高校生・一般の部

テーマ 1: 区制 80 周年をむかえた南区について
(私の街・私の学校・私の家族など)

34 ページ

	氏 名	学 校 名	学 年
1	石 浦 志 音	横 浜 市 立 共 進 中 学 校	1 年
2	長 谷 川 心 桜	横 浜 市 立 立 平 楽 中 学 校	1 年
3	田 中 杏 美	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	2 年
4	富 川 菜 々	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	2 年
5	瀨 野 步 夢	横 浜 市 立 藤 の 木 中 学 校	2 年
6	柚 木 太 陽	横 浜 市 立 共 進 中 学 校	3 年
7	金 田 弥 陽	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	3 年

テーマ 2: ルールとマナーについて
(スマホ・ゲーム・お酒・たばこ・薬物など)

39 ページ

	氏 名	学 校 名	学 年
1	陳 安 安	横 浜 市 立 共 進 中 学 校	1 年
2	浅 香 美 咲	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	1 年
3	平 田 絵 梨	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	2 年
4	安 積 柊 奈	横 浜 市 立 南 が 丘 中 学 校	2 年
5	爲 井 優 香	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	2 年
6	松 村 芽 依	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	3 年
7	森 田 ま り	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	3 年
8	鈴 木 想	横 浜 市 立 立 平 楽 中 学 校	3 年

テーマ 3: 自由課題

46 ページ

	氏 名	学 校 名	学 年
1	石 渡 凜	横 浜 市 立 共 進 中 学 校	1 年
2	池 谷 祐 真	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	1 年
3	柴 崎 伊 央	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	1 年
4	山 本 彩 寧	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	1 年
5	照 井 希 々 華	横 浜 市 立 立 平 楽 中 学 校	1 年
6	堀 籠 翼	横 浜 市 立 立 平 楽 中 学 校	1 年
7	乾 沙 綺	横 浜 市 立 立 蒔 田 中 学 校	1 年
8	大 嶋 翼 心	横 浜 市 立 六 ツ 川 中 学 校	1 年
9	村 田 菜 桜	横 浜 市 立 六 ツ 川 中 学 校	1 年
10	市 本 ひ な 子	横 浜 市 立 共 進 中 学 校	2 年
11	岩 瀬 凜 花	横 浜 市 立 立 共 進 中 学 校	2 年
12	柏 崎 夕 璃	横 浜 市 立 立 共 進 中 学 校	2 年
13	俞 虹 艶	横 浜 市 立 立 共 進 中 学 校	2 年
14	飯 畑 優	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	2 年
15	西 岡 里 桜	横 浜 市 立 南 中 学 校	2 年
16	松 元 園 来	横 浜 市 立 共 進 中 学 校	3 年
17	加 藤 佑 哉	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	3 年
18	篠 田 深 釉	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	3 年
19	福 島 未 蘭	横 浜 市 立 立 永 田 中 学 校	3 年
20	甲 斐 美 羽	横 浜 市 立 立 平 楽 中 学 校	3 年

小学生の部

テーマ1 区制80周年をむかえた南区について

(私の街・私の学校・私の家族など)

1 いろいろな国の人がいる南吉田小学校

横浜市立南吉田小学校 3年 馬場 詩文

わたしの学校には、いろいろな国の人があります。

わたしは、小さいころ、南吉田小学校はふつうの学校だと思っていました。学校から帰ってくる子たちは、日本人と同じだったからです。

でも、入学式の時校長先生が、

「この学校には、世界の50か国以上の国や地いきの人たちがいる」

と話していて、おどろきました。

ですが色々な国の人がいるので、学校に行くのが楽しみでした。けれども、さいしょのほうはドキドキしました。ほかの国の人となかよくできるかしんばいだったからです。

でも、一週間ぐらいたったら、わたしはなれてきました。外国の子たちがとてもやさしかったからです。外国の人も、日本人もかわらないなあとおもいました。

わたしの学校にはたくさんの外国の子たちがいますが、その中でも中国人が多いと思います。

そんな中で、心の中にのこっていることは日本語がうまく話せなかった子ともなかよくできたことです。

きゅう食でも、いろいろな国のこんだてが出てきたので中国のりょう理も色々知ることができました。

また中国の子たちが色々な自分の国のことをおしえてくれました。

たとえば、じゃんけんは日本とゲーチョキパーが同じで、びっくりしました。いろいろな国の人があると、とてもべんきょうになります。

外国にきょうみをもったので大人になったら、世界りょうこうに行ってもっと外国の人とたくさんお話しをして、その国のでんとうをもっと知ってみたいです。

2 ぼくの学校

横浜市立南吉田小学校 4年 渡邊 孝基

ぼくの通っている横浜市立南吉田小学校は、創立 118 年の歴史のある学校です。南吉田小学校には、ぼくのおじいちゃんやお母さんも通っていました。おじいちゃんの話を見ると、昔の校舎は 3 階建てで約 40 年前に 3 階建てから今の 4 階建ての校舎が建てられたそうです。ぼくは同じ小学校でも昔と今では全然ちがう事に、とてもしょうげきを受けました。

今、南吉田小学校には約 20 か国の生徒がいます。その為日本語の苦手な人は、「国際教室」という場所で勉強をします。国際教室は各学年一部屋ずつあり、少人数で授業をします。普通のクラスよりも分かりやすく授業をするので日本語の上達もとても速いです。また日本に来たばかりで日本語が一つも分からない人は、「日本語教室」という場所で勉強をします。日本語教室は国際教室よりもさらに少人数で日本語の勉強をします。もしぼくが他の国の学校に行くなら、勉強について行けなかったらどうしようなど知らない国で生活することに不安でいっぱいになると思うけれど、南吉田小学校のような小学校に通えたら、すぐに学校生活にもなれ、不安は消えてしまうと思います。

もう一つ、他の学校にはないイベント内容を紹介します。それは「マイキッズスポーツフェスティバル」という運動会です。運動会は他の学校にももちろんありますが、毎年在校生の母国の国旗を飾り、生徒だけではなく、見に来てくれた保ご者の人にも分かりやすくするために日本語の他、中国語、アラビア語、韓国語でもアナウンスをします。アナウンスは大人の通訳の方ではなく、生徒が行います。さらにプログラムの中には母国の民族衣装で登場するなど、南吉田小学校らしい内容になっているのが特ちょうです。それぞれの国代表で一人ずつ選ばれるので、生徒の人数の少ない国のお友達は低学年でも代表に選ばれるのですが、日本人が一番人数が多いためまだ選ばれた事がないのが少し残念です。

ぼくは知り合いに小学校の話をする時、

「公立の小学校なのにインターナショナルスクールみたいだね。」

と言われる事があります。他の国の人と同じ環境で生活出来ること、各国の様々な文化を知ったりすることは、貴重な経験です。デメリットと思われる授業の進み具合は、国際教室や日本語教室でおぎなうことが出来るため問題ありません。このように南吉田小学校には様々な特色があります。

休み時間、母国語でお友達同士が話していると理解できない事もありますが、ぼくは今の南吉田小学校で学生生活を過ごすことができ、とてもよかったと思います。

残りの約 2 年間まだまだ小学校生活を充実させるぞ！

3 南区の始まり

横浜市立南吉田小学校 4年 渡邊 佑基

「ここは中区だよ」

ある日、家族でテレビの地しん速ほうを見ていた時、ぼくのおじいちゃんが急に言い出した。ぼくの住んでいる所は南区なので、その時はおじいちゃんが何を言っているのか分からなかった。

くわしく話を聞くと、おじいちゃんが生まれた時はここは中区、3才の時に南区に変わったそう。そして、南区に変わってから1、2年後のおじいちゃんが5才の時、戦争が激しくなった。

終戦近くのある日、今の市大病院の辺りにぼくだんが落ちた。ひいおばあちゃんに家の前にあった防火用水の中へ頭まで入れられ、体をびしょぬれにした後、中村川を渡り山の方にある防空ごうに逃げた事があった。大勢の人が逆の黄金町方面に逃げる中、なぜかひいおじいちゃん達はぼくだんを落とされた場所を通り、その先の防空ごうに逃げたそう。

防空ごうの周りは人ばかりで、中に入る事ができない状態だったが、ひいおじいちゃんの知り合いでその地区の町内会長をしていた人が防空ごうの前でみんなをまとめていて、運良く中に入れてもらったそう。後から分かったことだが、黄金町方面に逃げた大勢の人は亡くなった人が多くいたそう。

「生死の分かれ目を経験した。」

と言っていた。

おじいちゃんは戦争中の頃を細い事まで話してくれた。

——まるで昨日の事のように——。

戦争が終わると家のまわりは焼け野原となり、2キロほどはなれた関内駅の向こうまで見えたそう。今家の周りはビルばかり。すぐそばの小学校ですら見る事ができない。ぼくはおじいちゃんからこの話を聞くまで、住んでいる南区が何もない事が想像もつかなかった。

今は近くに病院やスーパーなどがあり、とても便利で生活しやすい場所になっている。

しかし、便利になる一方で以前にはたくさんあった木造の2階建ての家が取りこわされ、そのあと地にマンションが立ちならぶと、昔からの知り合いが一人、また一人と引越して行ってしまった。話をしているおじいちゃんは、すごくさみしそうな顔をしていた。

戦争というあまりにしょうげきの時代を生きてきたおじいちゃん。小さい頃はとても苦労したと思う。決して忘れてはいけない、忘れる事はできないと思うけれど、今は楽しく、毎日を過ごせたらいいなと心から願っている。

だからぼくは、昔から良い所を残しつつ、新しい物を取り入れ、おじいちゃんも喜ぶような未来に南区がなってほしいと思う。

「おじいちゃんの昔からの知り合いはすごく少なくなったけれど、いつまでも長生きして、ぼくとぼくの双子のお兄ちゃんと一緒にこの町の未来を見ようね。」

4 人間っていいな やさしい町南区

横浜市立六つ川台小学校 4年 谷平 煌

「弘明寺商店街」「弘明寺かんのん」など南区には、たくさんみ力がある。

ぼくの住む地域には、町の人がやさしく、「大丸いせき」のあとがあり、れきしを知ることができる。たくさん遊ぶことのできる公園がある。

だから、ぼくは、この町が、すてきで良いと思う。

この前、よく行く公園に行った時、おばさんが火ばさみを持って、ごみ拾いをしていた。

それを見て、「おはようございます。」

と、弟と言った。すると、あいさつを返してくれた。おばさんが、カメをつれて散歩に来ていたと教えてくれた。

その他にも、何年生なのか、カメのことで話をして、楽しい時間だった。そして、おばさんがごみを拾ってくれて、「ありがたいな。」と思った。気さくに話しかけてくれる、町の人が好きだ。地域のために、公園のごみを拾うすがたが、すごいと思った。

ぼくが、とくに、この町のすてきだと思うところは、町の人が親切なことだ。

ある日、習い事に行く時、バスの中で、知らないおばあちゃんが、ぼくのかたをたたいて、「いいよ。」と、言ってくれた。その日は、雨がふっていたので、ぼくはかさを持っていた。

すると、おばあちゃんが、「かして。」と言って、ぼくのかさをまいてくれた。

ぼくは、あたたかい気持ちになった。けれど、きんちょうしていて、小声で「ありがとうございます。」と言った。

親切な人が、この町にいて、うれしい気持ちになった。

また、別の日に、習い事の帰りの時の事だった。その日も雨だった。

バス停をおりた時に、かさをさして歩いていたら、かさが、ひもに引っかかってしまった。そのまま進んでひもを外そうとしてもとれなくて、あたふたした。

すると、後ろにいた中学生か高校生くらいの、知らないお兄さんが、だまってぼくのかさをひもから外して、かさをすぼめて渡してくれた。

今度は、はっきりとした声で、

「ありがとうございます。」

と、言えた。

こうした、出来事をけいけんして、ぼくは親切にしてもらって、とてもうれしくあたたかい気持ちになった。

ぼくも町の一人として、出来る事をせいっぱいやりたい。そして、この町がもっと太陽のように明るくすてきな町になるために、ぼくはいろいろな人にあたたかく関わっていきたい。

5 私の南区の桜

横浜市立日枝小学校 5年 西村 翠

南区の花を知っていますか。「桜」です。私は南区が80周年ということを知って調べていた時に知りました。区の花が桜ということを知った時、私の好きな花なのでなんだかうれしい気持ちになりました。

私はこの南区の桜を、よりたくさんの人に知ってもらいたいと思っています。私は桜を通して色々な経験をしました。

まず一つ目は、桜の成長と管理です。私は蒔田公園の木に名前のプレートを作るイベントに参加しました。桜の担当で作業をしているとイベントの人が言いました。

「木にも命があるからね。むすんでしばらく日がたっていくうちに木がきつくなってたらむすびなおしてあげてね。」

と教えてくれました。そこで私は、南区の桜はだれが手入れや管理をしているんだろうと思いました。南区の桜は春になってきれいに満開にするための工夫をしているのだろうと思いました。

二つ目は、桜を利用することです。南区の桜をもっとかんたんに知ってもらうにはどうしたらいいのかを自分なりに考えてみました。その結果、オリジナルグッズを作ればいいのかと思いました。よりオリジナル感を出すために南区の桜を使うことができればいいと思いました。私は4年生の時、草木染めをやりました。バッグやハンカチなどを桜で染めたり、糸を染めてミサンガにしたりもできます。南区にさいている桜をバッグや糸といった桜に関係する記念グッズにできると思います。

私の区の桜は管理の人と区民のみんなのおかげで満開にさく桜です。次の記念すべき100周年には私が考えたオリジナルグッズなどにもこだわりたいです。そして、100周年もこの大好きな南区の桜がきれいで満開にさくことを願って。

6 80周年をむかえた南区と私の思い

横浜市立永田台小学校 6年 鹿間 莉愛

皆さんは、今年南区が80周年をむかえることを知っていましたか。

私は知りませんでした。なぜなら、私は南区に、2年前に引っ越して来たばかりだからです。私の家族は、2年前神奈川県からこの南区に引っ越して来ました。

私は、最初なにも知らない南区に引っ越して来て、不安な気持ちでした。

なぜなら、新しい学校でしっかりとやっていけるのだろうか、南区の地域の方々と、お話ができるのだろうかという、心配があったからです。

南区のことを知らなかったので、南区は少し、静かなイメージのある町だなと思っていました。ですが、南区に行った時に私が思っていた南区とは、全くちがいました。

南区は、むしろ静かな町というよりは、すごくピカピカかがやいている様な明るい町でした。地域の方々も明るい人で、朝、登校する時に地域の皆さんが、「おはよう」と言ってくれたり、商店街にお買物をしに行った時にも、「こんにちは。一人でお買物行くななんてすごいね」などと声をかけたりしてくれます。

私は、そのような南区が笑顔いっぱい、ものすごく気に入りました。

これまで温かい地域の方々、これほど明るい町を作ってくれたおかげで、このような南区があるのだらうと思います。

安全な、南区の町を作ってくくださった方々に、感謝します。

南区は、これからも様々なことに、発展すると思います。

将来どのような南区かは、分かりませんが、今よりさらに明るい様な町になってほしいです。

弘明寺商店街や阪東橋商店街などでも、えん日には屋台が開いていたり、七夕祭りがあったりなど、年間をとおして、色々な行事が行われています。

高れい者の方々にとっても、良い食べ物屋さんもあります。

南区は、そのような高れい者の方々、ゆっくり出来る様な所があります。

これからも南区が、笑顔があふれる町でいられるように、私たちが協力して絆を深めていけるような南区を作っていけるように、せいっぱいがんばっていきます。

7 私のまちについて

横浜市立日枝小学校 6年 鈴木 栞花

私のまちには、いたるところに誰が捨てたのかもわからないゴミが落ちていた。

私のクラスでは、横浜の時間でゴミを減らし、まちに恩返しをしようと思い、活動をしている。私は、知らない人が捨てたゴミをなぜ私たちが拾わないといけないのかとと思っていた。初めの頃はそんな思いもあり、なかなかゴミを拾えなかった。しかし、少しずつ拾っていくと、タバコなどのゴミも拾えるようになった。ゴミを拾っている最中に、たまたま通りかかったおじさんに笑顔で、「ありがとう。」

と、言われた。私は、戸惑ったが、とても嬉しかった。そして学校に戻り、ゴミを洗っていると、ゴミの匂いがとても臭くてもう活動をやめたいと思った。タバコの数を数えてみると、私たちの班が拾ってきた個数だけでも 93 個もあった。私は、なぜこんなにゴミを捨てる人が多いのかと疑問に思う。

後日、拾ってきたゴミでアップサイクルをした。私はペットボトルから、けん玉を作った。しかし、ゴミが減ったのは一部のペットボトルや、カンだけで、タバコなどのゴミは減らなかった。また、ゴミを拾って数日たった日に、まちを見るとゴミが減ったという印象は持てなかった。そして、少しでもまちに変化を起こしてみたいと思った。

クラスでこれからの活動を話し合った。その結果、専門家の人に話を聞いてみる、もう一度アップサイクルをするなどの意見が出てきた。私は心のどこかで、まちには変化があまりなかったこと、ゴミがとても臭いと思った経験から、このまま活動が続けるのはいやだった。そんな時、初めてゴミを拾っている時にたまたま通りかかったおじさんに笑顔で

「ありがとう。」

と、言ってもらい、とても嬉しかったのを思い出した。もう一度まちの人を笑顔にしたり、そしてまちに変化を起こしてみ、恩返しをするために、もう少しこの活動が続けてみてもいいんじゃないかと思えた。

初めはこの活動に対していやだなと思う気持ちでいっぱいだった。しかし、ゴミと向き合っていくうちに、この活動が続けていこうと思えた。いつかまちに変化を起こせるよう、色々なことに挑戦して頑張っていこうと思う。

ここで私からの提案だ。みなさんも誰かを笑顔にしてみたり、ゴミを拾ってみてはどうだろうか。そうすることで、自分も相手も嬉しくなり、エスディージーズにもっと貢献できると思う。そしていつか変化を起こして、色々なことに挑戦してみたい。

8 今までの80年これからの80年

横浜市立南小学校 6年 桑 佑真

みなさんは南区に何年住んでいますか。ぼくは、今年で12年目です。小さいころと今を比べると変わったことが多くなりました。ですがぼくは、10年ほど前の事しか覚えていません。しかし、偶然的にもなんと祖母が南区と同年だったのです。この事実を知ったぼくは、祖母にインタビューをしました。

まず、おどろいた事は、南区は元々中区の一部だったことです。現在と比べて昔のときより小さくなっています。

二つ目は、大岡川で泳ぐことができた事です。昔はゴミなどがほとんど無くキレイだったことと水量が多かったことで泳ぐことができたそうです。また、水量が多く水位が高いことで、大雨が降ると洪水になり川の水があふれ出し家の中が浸水したと言っていました。これにより洪水や川の水があふれないように護岸工事をして今の大岡川になりました。

六ツ川で飼っているヤギを大岡川に連れてきて、大岡川にはえていた草などを食べさせていた人もいたと祖母が言っていました。今の大岡川沿いには、桜が立ち並んでいます。あの桜は、祖母が子どものときに植えられたそうです。

では、次に弘明寺商店街を比べてみましょう。みなさんは、商店街というと何を思い浮かべますか。現在は、八百屋さん、ケーキ屋さん、お弁当屋さんなどがあります。ですが、昔の弘明寺商店街には、映画館、おもちゃ屋さん、銭湯などがありました。特におどろいたことが、今のお弁当屋さん、「あしな」は、元々銭湯を営んでいたことです。他にも映画館が3ヶ所、おもちゃさんが2ヶ

所ありました。商店街でも古いお店で、おいしいみたらし団子を売っている「盛光堂」は、祖母が生まれる前から営業していたそうです。他にも、おいしいおとうふを売っていてお店に行くとやさしく接してくれる「藤方」など古いお店がたくさんあります。

今ぼくが通っている南小学校について聞いてみました。南小学校は元々大岡小学校の分校として創られました。ぼくの祖母は、大岡小学校に通っていたため分校ができたとき当時 6 年生だった祖母が分校に通っていました。当時の南小学校は、木造建築で床がミシミシと鳴っていたそうです。

今年で区制 80 年ですが、今年からまた 80 年自分が 92 才になっても、今と変わらない弘明寺商店街、南区全体を守っていきたいです。

9 80 年の年月

横浜市立六つ川台小学校 6 年 中井 純平

「南区制 80 周年 おめでとう」という旗を弘明寺駅前で見ました。ただ、「区制 80 周年」と言われても、僕はそれが長いのか短いのか、あまりよくわかっていなかったの、「ふーん」ぐらいにしか思っていませんでした。「おめでとう」と書いてあるぐらいだから、良いことなんだろうなとは思いました。ただ、80 周年と聞いて、

「あ、じいちゃんと同じ年なのかー。じいちゃんが生まれた年に南区は出来たんだ」と思いました。ちょうど学校でも歴史の勉強が始まり、僕は歴史の授業が好きなので、歴史を調べてみることにしました。

80 年前とは、1944 年です。僕にとって 80 年前なんて、すごい昔のように感じていて、明治時代かなと思っていたら、80 年前はもうすでに昭和時代でした。1944 年は、丁度第二次世界大戦、太平洋戦争の最中でした。戦争も僕にとってはすごい昔のことのイメージだったので、びっくりしました。じいちゃんから、昔の話は聞いたことはないけれど、じいちゃんは戦争中に生まれていたのだなーと実感しました。戦争後は、食べる物もなく、大変な生活の中、じいちゃんは育ったのだなと感じました。原爆投下とか教科書に載っていることもあって、僕の中では勝手にすごい昔の歴史的な事件にしてしまっていたけれど、じいちゃんの生きているときに起こったことなんだなと思いました。今はウクライナで戦争をしているけれど、遠い外国の話で、身近で戦争で人が亡くなったってしていないので、僕にとって戦争は実感のない出来事だけれども、今後平和な日本を守るためにも戦争の悲惨な話とかをじいちゃんに聞いて、僕も戦争を起ささない未来を作っていきたいです。

また、前に学校で昔のことを学習したときに、学校ができたときの周りの写真を見せてもらいました。今の学校の周りは家がたくさん立ち並んでいるけれど、昔の学校の周りは山や畑で今の様子と全然ちがいました。学校ができて 47 年ぐらいの間に色々発展して変わったのだなと思いました。僕たちは、今日あまり変化というものを感じてはいないけれど、後から見るとこの今日もきっと変化しているのかなと想像します。そんな中、80 年という長い年月が続いた南区は、お祝いの 80 周年になると思いました。

小学生の部

テーマ2 ルールとマナーについて

(スマホ・ゲーム・お酒・たばこ・薬物など)

1 わたしの家のマナーとルール

横浜市立永田台小学校 4年 大谷 愛

マナーとは、動作やたい度。行き作法のこと。ルールとは、きそく。決まりのこと。

家の中には、どんなマナーとルールがあるのか考えました。

わたしが思う家のマナーは、食事の前に手をちゃんとあらう。イスにすわる時は、せすじをのばすなどです。食事中は、食べ物が口に入っているじょうたいで会話をすると、きたないし相手がいやな気持ちになると思うので、食べ終わってから話すようにすることも大事だと感じています。

さらに、食事の前のあいさつ「いただきます」食後のあいさつ「ごちそうさまでした」がとても重要で、大事な言葉だと感じました。

「いただきます」は、「あなたの命をわたしの命にさせていただきます。」という感しゃの気持ちがこめられていると思いました。

「ごちそうさまでした」には食事を用意してくれた方への感しゃの気持ちがこめられていると思いました。

自分の食べれない物でも、わたしたちの元へ来てくれて「ありがとう」という気持ちと、食べられなくて「ごめんね」の気持ちを少しでもへらせるように、たくさんの命をもらえるようにしたいと思いました。家のマナーを守り、感しゃの気持ちをもって生活したいです。

次に、家の中のルールについてです。家の中には、物を大切に使う事、他の人のじゃまをしない事、そうじをする事などのルールがあります。これらのルールを守るためには、どうしたらいいか考えました。

まず、物を大切に使うには、注意深くあつかうことが大事だと思いました。特に、ガラスのコップやお皿を持つ時には、力を入れずにやさしく持つようにすることで、家族みんなで大変なものを守ることが出来ます。

次に、他の人のじゃまをしないためには、相手の気持ちを考えることが大切だと思いました。わたしには5才の妹がいます。妹が遊んでいる時や、わたしがべん強している時にはさわいだりしない。家族でテレビを見ている時や、電話で、通話をしている時は静かにする。そういう事で家族との関係を保つ事が出来ると思いました。

最後に、そうじをするためには、かたづけの習かんを身につけることが大切だと思いました。わたしは、かたづけが苦手です。そのことをお母さんに相談したら、「出したところへしまうクセをつけなさい。愛に帰る場所があるように物にも帰る場所がきっとあるはず。」と教わりました。ち

らかっている部屋のままにしておく、ケガをしたり、物がこわれる事があるので、キレイにする事を心がけようと思いました。

家の中のマナーとルールを守るには、家族みんなで協力し合うこと、感しゃの気持ちをわすれない事が大切だと思いました。マナーとルールを守り、にぎやかで幸せな生活を送ってみたいです。

2 一人一人の心がけで

横浜市立南小学校 5年 西田 莉衣咲

みなさん、スマホ、ゲームなど SNS を使ったことはありますか？ 私はあります。よく、スマホでゲームやラインなど、ネットをたくさん利用しています。ゲームなど、すごく楽しいですよ。しかし、SNS などがきっかけでトラブルがおきたり、相手がいやな思い、悲しい思いをすることがあるのです。このことは、だれにでもおこる可能性があります。

私は、南ヶ丘中学校ブロックの子ども会議の代表です。そして、南小では、どのような SNS トラブルがおきているか、どのような SNS トラブルがおきているか、アンケートを取って調べました。するとゲームの音声機能でケンカを売られた、ラインのグループで仲間はずれにされた、殺害予告されたなど、悲しいことがたくさん書かれていました。明るくて、楽しい南小でこんな事がおきているなんて思っていませんでした。

そして、初めての子ども会議できんちょうしたけれど、アンケート結果のこと、アンケートを取って思ったことなどたくさん発言をしました。他の小学校や南ヶ丘中学校の意見なども聞いて、よかったです。さらに、南区役所の会議で話したことを発表するということもあるそうです。もし、代表に選ばれたら、SNS トラブルの事をたくさん発表したいです。

最後に、私は今まで SNS トラブルなど、気にしたことがありませんでした。しかし子ども会議の代表になってから、そんなことないと思いました。アンケート結果などでよくわかりました。SNS トラブルは、いじめにもつながることもあります。トラブルや問題、いじめなどにはかならずその原因があります。原因があつて問題がおこるのです。あなたは、友達、家族などに、いやなことなどしたことはありますか？ トラブルをおこしたことはありますか？ ケンカしたことはありますか？ 心あたりがある人は、その原因を考えてみてください。そして相手の気持ちも考えてみてください。一人一人が心がけることで、いじめ、SNS トラブルなども少しだけでもへるかもしれません。

3 ルールとマナーについて

横浜市立南小学校 6年 安達 遼太

ある日、急いで塾に向かっていると、足の裏に違和感を感じた。まさかと思って靴の裏を見つめると、やはり吸った後のたばこが付いていた。私はこれまでに何回も吸った後のたばこを踏んだことがある。前までは、しょうがないなと思い見過ごしていたが、今回は本当に腹が立った。もう許さないと考えた。

たばこは、どの面から見ても、いいことは一つもない。吸っている本人から見たら、いいことだらけかもしれないが、歩きたばこをしたり、道に捨てたりしていたら、大迷惑である。

たばこを吸ってよくないこと。一つ目は、体に悪影響があるということがある。たばこを吸うと、吐き気、食欲の低下、心臓がドキドキする、せき、めまい、息切れ、思考力、運動能力の低下などの症状が出てくる。さらに、長い間吸い続けると、がんになるリスクが約2倍になったり、吸う前と吸った後では、指先の血流量が少なくなってしまうりする。

二つ目は、吸っている人以外の人にも体に悪影響があるということだ。実は、たばこは吸う煙よりも火がついた方の煙の方が、有害物質が多いのである。これは意外で、私も知らなかった。

私は、大勢の人が利用する施設などで、禁煙と書いてあるポスターを見つけた。だれもが一度は見たことのあるポスターだ。あのポスターはなぜ貼ってあるのだろうか。実はあのポスターは、受動喫煙を防ぐためである。受動喫煙とは、たばこを吸わない人でも、たばこの煙を吸いこむことである。たばこの煙を吸いこむと、体に害が出るので、この禁煙のポスターを貼ってあるのだ。

このように身の周りには、マナーを守ってというポスターや条例があるのだが、どうしても、どうしても守らない人が出てくるのである。冒頭でも述べたように、歩きたばこをしたり、道に捨てたりしている人をととてもよく見かける。テレビを見ていても、駐車場にたばこがびっしり捨ててある映像を見たことがある。まるで駐車場を喫煙所のように扱っていた。その映像を見た時、喫煙者は何を思ってたばこを捨てているのだろうか、他人の迷惑になるとは思っていないのだろうかと感じた。

恐らく迷惑行為をする人は、周りが見えていないと思う。迷惑行為をしても、迷惑にはならないだろう。自分さえよければいいんだと思っている人が多数だと思う。要するに、迷惑行為をする人は、自分さえ良ければいいと思っているのである。こういう人は、周りをよく見て行動してほしいと思っている。

4 自分の体と周りの事を考えて

横浜市立六つ川西小学校 6年 ルイズ アミラ マイコ

夏休みに家族と花火大会に行く事になった。4年ぶりの花火大会と知って、とても楽しみにしていた。家族みんなお腹がすいた為、コンビニで家族みんなの分を買いに行った。コンビニで買って信号をわたっている時に、となりで歩きタバコをしている男性を見た。信号をわたった先には子供が複数人いた。私はそれを見て、とてもイヤな気持ちになった。タバコの煙の中には4,000種類もの化学物質が含まれており、そのうちの200種類以上は有害物質なのだ。有害物質とは体内に入り悪い影響を与える物質の事だ。私は、喫煙者と一緒にいると肺がんや、喘息などの病気を発症する危険性が高まる事を知って自分の体に悪影響を与えてしまうし、周りの人にも悪影響を与えてしまう事を知ってほしいと思った。

自分は、家族と出かけている時に外で喫煙している人がいたら自分達からはなれたり、煙を吸わないよう日頃から心がけている。小さい頃は姉がタバコのこわさについて教えてくれた。だから、家族と出かけている時に、喫煙している人を見たらすぐ教えてくれたり、一緒にはなれてちがう所に連れていってくれたりしてくれた。自分もそんな優しい姉にあこがれて、今では自分が下の子達に教えたりして、姉のような優しい人になりたいと思っている。タバコのこわさについて教えてくれた姉にはとても感謝している。

次は、また別の花火大会に行った日の事だ。車を止めて車から出た時、向かい側で喫煙している人がいた。自分は知らずに向かい側のエレベーターを利用したが姉二人は一つ下の階のエレベーターを利用した。その時は何も気付いていなかったけれど、喫煙していた人を思い返して見ると、なぜ姉が一つ下の階のエレベーターを利用したのか良く分かった。姉以外は自分と共に向かい側のエレベーターを利用してしまった。自分が最初に向かい側のエレベーターに行ってしまった為、姉以外は一緒に来てしまった。次からは近よらないように用心しようと思った。私達非喫煙者達が気を付けるだけではなく、喫煙者達も吸うなら喫煙所で吸ってほしいと思った。

タバコを吸っている人の割合は20代で25.5パーセント。30代で33.2パーセント。40代で36.5パーセントという結果だった。男性の方が圧倒的に多かった。私は20代で吸っている人が20パーセント以上もいる事を知って、体を大切にしてほしいし、今後を考えてやめるように努力をしてほしいと思った。私は、これから「タバコ」について友達に教えて、将来自分の体を大切にしたいと吸わないようにしてほしいと思った。これからタバコを吸う人達は考えてほしいと思う。

小学生の部

テーマ3 自由課題

1 かんしゃの気持ち

横浜市立永田台小学校 3年 栗原 かな

私は、パパとママにかんしゃの気持ちを伝えたいです。

パパは、お仕事をがんばってくれて、お出かけにつれてってくれます。

ママは、きょうだいを3人産んでくれて、ねつを出しても毎日、家事やごはんを作ってくれています。

いつも、ママとパパに

「兄弟のめんどうをみてくれて、ありがとう。」と、言われるので私も産んでくれてありがとうとかんしゃをしたいです。

ある時「コウノドリ」というドラマを見ました。赤ちゃんは、女の人にしか産めないで、おなかに赤ちゃんがいてもなにかあったときお母さんは、おなかの赤ちゃんをまもり、帝王切開でも赤ちゃんを産みたいという気持ちがすごく伝わりました。

私も命をかけて、産まれてきた一人の人間だと思ったので、ママとパパにかんしゃをしたいです。

私は、命より大切なものは、ないと思います。

世界のみんなが、命を大事にして生きていけるように、私は願っています。

2 まほうの道具

横浜市立南吉田小学校 4年 山田 幸彦

ぼくは夏休みに家族で旅行に行った。プールも温泉も楽しかったけれど、一番は、ホテルの部屋にあった「ある物」だった。

それは木でできていて、たんすみたいな形。大きさは手のひらに乗るくらい。小さい引出しが一つ付いている。上の方は黒いすべすべした金ぞくで、取っ手がついていてくるくる回る。ふしぎでまほう使いの道具みたいだ。一体何に使うのかなと見ていると、お父さんが「お前も飲むか。」と聞いてきた。

「コーヒーミルと言って、コーヒー豆をひく道具だよ。」

「ひくって何？どうするの？」

「上の黒いところに分量のコーヒー豆を入れ、取っ手をぐるぐる回すと豆が細かくくだかれて粉

になるんだ。」

「やってみたい。」

いいよと言われ初挑戦することになった。

お父さんが豆を入れたコーヒーマルを和室の低いテーブルに運んできた。ミルの前にすわると、お父さんが横でマルをおさえて動かないようにしてくれた。お母さんがスマホのカメラをかまえる。妹二人が、「やりたいやりたい!」とテーブルによじ登ってきて、さわってじゃましようとしたけれど、お父さんとお母さんが「あぶないからお兄ちゃんにやってもらおう」と妹たちをブロックした。

いざ取っ手を回すとゴリゴリと音がして動き始めた。えんぴつけずりににている。真上から見ると、豆が粉になっていく仕組みが分かって、おもしろくなってきた。いきおい良く回すと、粉がテーブルに少し飛びちってしまった。

がんばって回し続けるうちにくるくる空回りするようになった。お父さんが「完成だな」と言って引出しを開けたら、なんと茶色い粉があふれて飛び出してきた。「入れる豆が多すぎたあ」とみんなで笑った。妹たちがこぼれた粉に鼻を近づけてにおいをかいだ。

いよいよ味見。粉を紙の中に入れ、お湯を注ぐ。下からポタポタ茶色い透明な液体が出てくる。理科の実けんぼくてワクワクする。大人の気分で生まれて初めてコーヒを飲んだ。すこし苦い。でもあまい良いにおいがする。お母さんも「香りがすごくいいね。」と言った。けっきょく3口しか飲めなかった。

ぼくは4才の妹と毎日けんかする。妹はわがままばかり言って、すぐ泣いたりわめいたりしてうんざりする。両親は、毎日誰かを怒ったりなぐさめたりでいそがしい。家の中はいつもすごくうるさい。

でも、この日ぼくがコーヒをひいている間、みんなぼくの手元をじっと見ながらだまって待っていた。両親がぼくのひいた豆のコーヒをおいしそうに飲んでいて、妹たちもいいにおいがするとどきげんになった。コーヒーマルとぼくのまわりに家族全員が集まり静かでいい時間になった。ミルは変な名前だけど、やっぱりまほうの道具だ。

3 努力で変わろう

横浜市立六つ川台小学校 4年 齋藤 琉成

「子どものころから負けずぎらいでした。」と、スポーツ選手やオリンピック選手が、テレビで言っているのを聞いたことがあります。ぼくは、運動会で負けても「残念だったなあ」とか「また次がんばればいいや」と思うだけでした。だから、自分のせいかくは負けずぎらいではないと思っています。

ぼくは、3才から水泳を習っています。最初のころは、顔を水につける練習から始めて、今はクロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライが泳げるようになりました。この4種目の中で、平泳ぎが一番苦手だったので、日曜日にお父さんと市民プールへ行って、練習をしました。そして、だんだんコツをつかんで、一番とく意になりました。

ぼくが習っている水泳教室には、年に数回大会があります。教室のかべに、かこの大会の新記録がはってあって、ぼくは「平泳ぎなら大会新記録を出せるかもしれない」と思いました。

そして、大会本番になりました。とてもきんちょうしたけれど、新記録を出すために気合いを入れて泳ぎました。結果は、0.09秒届きませんでした。0.09秒は、まばたきをするよりも短い数秒だとお父さんが教えてくれました。そのとき、ぼくは初めてくやしいと思えました。だけど、なみだは出ませんでした。

家に帰ってから、「スポーツ選手やオリンピック選手はくやしなみだを流すのに、なぜぼくはなみだが出るほどくやしくならなかったのだろう」と思っていたら、「スポーツ選手やオリンピック選手は、人の何倍も練習をして努力しているから、人の何倍もくやしくなるのではないか。」

とお父さんが言いました。この言葉を聞いて、ぼくは水泳教室で練習をただけで、他は何もしてなかったことに気付きました。

3か月後に、また大会があります。今度こそ大会新記録を出したいです。そのためには、「ぼくが変わる必要がある」と思います。速く泳ぐためには、どうしたらいいか研究をしたり、体力をつけるために走ったり、自分でできることを考えて、人の何倍も練習をして努力しようと思います。

4 手話の大切さ

横浜市立六つ川台小学校 4年 趙 凧

私が手話をテーマにしたきっかけは、学校の国語の授業です。ロッカーの上においてあるたくさんの本を見て、「あなたの声がききたい」という題の本を見つけました。

その本は聴覚障害の人の生活や思いが物語でかいてあって、読み終わると涙が出てくるほど感動する1さつでした。

そこで、私は基本の手話ぐらいは覚えておこうと思い、夏休み中に読む本を選びながら手話のやり方がかいてある本をさがしていたのですが、読んでみるとかんたんな手話でもいくつもおぼえるのはむずかしくて大変です。なので、本で手話を覚える方法はあきらめました。

それでも何日かの間、考えつづけていると、ある方法を思いつきました。学校で手話の授業を開く方法です。学校でも手話の勉強をしたら、どんな人も聴覚障害の人と少しはかかわれるかも知れないと思ったからです。

私は1、2年生のとき、音楽の授業の前には必ずクラスみんなで「さんぽ」の曲の手話バージョンを練習しました。それでも、全ての手話をそれで覚えられるわけではないので、やはり、勉強としてちゃんと学んだほうがいいと思うのです。

耳だけでなく、目が見えない人や、生まれつき手足が不自由な人もたくさんいます。そういう人たちがもっと楽しく、安心してくらせる世界になってほしいと、今もつよく思っています。

5 みんな仲間

横浜市立永田台小学校 5年 加藤 柚希

みなさんはインクルーシブという言葉を知っていますか？インクルーシブとは障がいの有無や性別、人種など関係なく全てを包みこむ、つまり仲間はずれにしないという意味です。私たちは同じ人間であっても様々なちがいがあるけど、ちがいを認め合い全ての人を大事にして生きていけることだそうです。

私がこの言葉を知ったのは、習っているダンスで知っているお兄さんやお姉さんたちが障がいを持っている人たちとダンスを踊っているのを見たのがきっかけでした。みんな笑顔で楽しそうに踊っていて、ダンスもかっこよくてとっても驚きました。私も一緒にやりたいと思い今年挑戦することにしました。

初めてレッスンに参加した日、私は「ぶつかってしまったらどうしよう、大きな声を出されたらどうしよう」などと不安になり、ドキドキしていました。でも私は仲よくなりたいと思い、思いきって声をかけてみました。そうしたら笑顔で返事をかえしてくれました。その時はとってもうれしかったです。メンバーは私よりも年上の人ばかりだけれど、名前を呼んでくれたり、「よろしくお願ひします、ゆずきさん」と声をかけたりしてくれました。みんなが楽しくダンスが踊れるよう、私もサポートするために今は大きく振りを踊るように心がけて練習をがんばっています。

今年の夏は車いすバスケの試合でダンスを踊ることになり、試合の応えんもしました。初めて車いすバスケもみたけどスピードがあって迫力満点でとてもかっこよかったです。障がいを持っている子も一緒に応えんをして、点数が入るとハイタッチをするなど大盛り上がりでした。

私たちは勇気を出せば、障がいのある人、他の国の人、高れいの人、色々な人とつながることができます。みんな同じ人間です。できないこと、苦手なことが多いかもしれないけれど、できることもたくさんあります。なのでもし困っていたら声をかけて助けてあげたいです。

一人ひとり「みんなちがってみんないい」という言葉があるけれど、みんなちがうからこそそれぞれの良さがあるし、みんなちがうからこそ自分の良さもあると思います。

学校や自分の身近なところでも、みんなが助けあって、インクルーシブの気持ちで、友だちや周りの人と接し、関わることができたら、もっと優しくあたたかい社会になると思います。自分は友だち、先生、家族、仲間、周りの色々な人たちに支えてもらうことが多いので、これからは私がかくさんの人の助けになるようにしていきたいです。

6 誰もが笑顔でいられること

横浜市立南小学校 5年 狩野 晴花

私にとっての平和とは、「誰もが笑顔でいられること」だと思います。

私は、この夏休みに広島県の平和記念資料館、平和記念公園に行きました。特に印象に残ったも

のは、爆弾によって着ていた洋服が肌に焼き付いてはがれなくなってしまった写真と、お母さんが自分の子供を抱き抱えながら「目を開けて。」と声をかけている写真でした。1発の原子爆弾で、多くの笑顔や命、がんにやうだと思われていた建物のほとんど一つ残らず失われてしまいました。元の街に戻すのは長い時間がかかりました。私は、世界にこんな恐ろしいものがあると想像もしていなかったで、「なんて恐ろしいものがこの世界にあるのか。」と、今まで自分が平和だと思っていたので残念に思いました。

7月に小中学校合同の話し合いに参加した時には、いじめについての話し合いが行われました。その話し合いの中で、SNSでの悪口が多く存在していることを知りました。相手の年れいや性別などが全く分からない中で悪口を言い合われていることと、いつか自分も悪口を言われるんじゃないかと、とても怖く不安に思いました。

私は、誰でも人を傷つけることはたった一言、たった一瞬で出来てしまうことが本当に恐ろしいと思えました。これは、多くの笑顔を一瞬でうばい、傷つけてしまった原子爆弾と似ていると私は思います。

私は、誰もが笑顔でいれるため応援するためにチアを習っています。最初チアを始めた時はただ楽しいだけでした。でも今は違います。楽しいのもそうですが、色々な人を「笑顔にしたい。」「元気にしたい。」「がんばっている人を応援したい。」そんな気持ちでチアをやっています。

そして私は笑顔で踊ることを大切にしています。傷ついたり、気分が落ち込んでいる時は原子爆弾が爆破した時のように、笑顔と元気はすぐ元にはもどりません。だからこそ、笑顔で応援し続けることが大切だと思います。笑顔と元気、この気持ちを大切に、応援し続けないと多くの人に笑顔と元気を届けられません。

今こうやって笑顔と元気を届けたいという思いをもちながらチアを習い楽しむこと、元気に学校に行き、友達と一緒にいられることは、この日本が平和だからだと思います。

私は、一人一人が相手の気持ちを考え、思いやりをもって行動することが大切だと思います。例えば、自分が言われたらイヤな言葉を使わないこと、友達がケガをしたら保健室に連れて行ってあげることです。また、原爆ぎせい者の事を忘れず、日本は平和で自分はとても幸せなんだな、と常に感謝の気持ちをもつことが大切だと思います。誰もができる思いやりの心を、多くの人がもち続けて欲しいです。また、私自身もこの心をもち続けたいです。

7 私の夢

横浜市立石川小学校 6年 任 照瑠

誰かの心を動かす。そんな歌を歌うことが、私の夢です。

私がまだ3年生のとき声楽を習っていました。入ったばかりの私に優しくしてくれたのが、声楽の先生です。教え方もうまくて、それに「上手い」と言ってくれたので私はあまりきんちょうせずに過ごせました。授業の最後に、先生がお手本をきかせて下さるとおっしゃいました。前に立ち歌い出す先生はとても堂々としていて、決して私には真似できないような迫力でした。私は歌には

自信があった方なので、すごくおどろき、思わず先生の表現に聞き入ってしまいました。この時、生まれてはじめて、本物の音楽を感じれたような気がしました。

その日から私は、毎日努力して、ソルフェージュもがんばりました。声楽の先生を見て、真似して、また見て、をくりかえし、私自身が納得するまで練習し続けました。そこである日の授業で、先生が、「他のクラスの方と合奏する」とおっしゃいました。ここにはたくさんのクラスがあるので、私たちの歌に、いろんな楽器が加わると思うと、とても楽しみでなりませんでした。

本番の日。少し恐くて、少しきんちょうしていました。みんなを見ても、きんちょうした様子でした。私はとくに英語が得意だったため、英語の部分を任されていました。失敗したらどうしよう、失敗しないようにしなきゃと不安な気持ちだったのですが、前に立ち堂々と歌う先生の姿を思い出したら、きんちょうがうすれていきました。合唱がはじまり、きれいな音色が奏でられました。ホールの中だからか、練習のときとは違うような美しさがあります。私の番にきたとき、不思議なほど体の奥から音がわいてくるような気がして、全力で歌うことができました。先生の歌を思い出し、その通りに歌えました。合奏が始まる前にあった不安な気持ちも、今はもうなくなっていました。

合奏が終わり、胸がすごくすっきりして、清々しい気分でした。拍手をしてくれた沢山の人たちの中には家族、そして先生もいました。私は改めて、「やりきったんだ」と感じることができました。

私の夢は、「誰かの心を動かすような音楽をつくりあげること」です。たくさんの仲間たちと一つになって、先生のように、誰かの心を動かしたいです。そして、その夢は今もこれからも、ずっと変わりません。私は家の都合で声楽はやめてしまったのですが、今でも毎日こつこつと練習しています。あの時、もし先生がいなかったら、今の私はいません。この大きな夢をくれた先生のことはいつまでも忘れませんし、いつまでも私のあこがれです。もしもいつがまた会えたなら、成長した今の私をみてほしいなと思いました。

8 教育を受ける権利

横浜市立永田小学校 6年 海老塚 智咲

皆さんは、「勉強は面倒くさいからやりたくない。」や「勉強なんてなんの意味があるの？」などの言葉を口に出したり思ったりしたことはありますか。私はこの言葉をたまに耳にすることがあります。私も小学校低学年の頃などは、勉強にあまり興味がなくてその言葉を思いました。

しかし、私たちはこのままでよいのでしょうか。以前テレビで私と同じぐらいの年れいの子たちが、労働的な仕事をしているのを見て私はおどろきました。そこで、本やインターネットで気になったことを調べてみました。すると、小学校に通えずにいる子供は約5,900万人で、字の読み書きや、簡単な計算ができない人は世界で約7.7億人ほどもいるということがわかったのです。私は、よりおどろきました。日本にいる私たちは、「義務教育があるから関係ないよ。」などとも思う人はいるかもしれませんが、日本でも経済格差と教育格差の関係性が問題視されていて習い事に通いたくても通えないという子供がいたり、生まれた家庭によって十分に勉強できていない子供もいるそうなのです。さて、みなさんは学校で友達と一緒に勉強をするのと、家の労働的な仕事をするのでは

どちらが良いでしょうか。今も学校に通わずに仕事をしている子供たちはいます。基本的な読み書きや計算ができない人は、大人になっても収入の高い仕事に就けなくて、貧困のまま親になって子供を学校に通わせる事ができなくなってしまう、ずっと同じ循環が生まれてしまいます。このようなものの主な原因として考えられているものは次のように、男女による差別、家が経済的に苦しくお金が足りない、病気にかかっているのに十分な治療を受けられない、戦争や紛争が自分の国でおこっている、学校が近くにない、そもそも文房具などの教育自体を支える必要最低限なものが全て揃っていないなどの理由があります。

これらをなくすには、親が教育の大切さを理解する、教育の環境を整える、先生の指導力を高める、などと教育への意識を高めることです。そうすることで教育を受けられる人は確実に増えます。さらに、小学校を卒業した後にはほぼ使うことなくなるランドセルをアフガニスタンに届ける「ランドセルは海を越えて」というボランティア活動も行われているそうで、その活動にとっても感心しました。以上のことをふまえて、私はまず教育の大切さを心にとどめて勉強していき、他のみんなにも今の教育を受けられない子供たちがいるという悲しい現状を伝えていきたいです。皆さんにも何かできることは必ずあるはずですよ。ぜひ取り組んでみませんか。

9 日本の食品ロス減少のために私たちにできること

横浜市立永田小学校 6年 木村 真緒

皆さんは、食品ロスの日本の現状について知っていますか。日本では1年間に約612万トン、東京ドーム5はい分になる食料を廃棄しているのです。

このような食品ロスを減らすために私たちにもできることはないかを調べたり、考えたりしました。そこで私たちにもできることが3つあることが分かりました。

一つ目は、賞味期限切れや消費期限切れの食品をすぐに捨てないことです。まず、賞味期限とはこの年月日まで品質が変わらず美味しく食べられる期限のことでスナック菓子、缶詰、ペットボトル飲料などのいたみにくい商品に表示されています。また消費期限とはこの年月日まで安全に食べられる期限のことでお弁当、サンドウィッチ、ケーキなどいたみやすい商品に表示されています。私の家では賞味期限や消費期限が近くて割引されているもの買い、賞味期限や消費期限がもし切れてもにおいや触った感触などをたよりにして食べられるのかを決めています。なので賞味期限や消費期限が切れているという理由だけで捨てるのではなく、においや触った感触、見た目など自分の五感をたよりにして食べられるかどうかを決めるのが大切だと思いました。

二つ目は、野菜や果物の食べられる皮や葉は食べることです。私の家ではカレーライスのにんじんは皮ごと入っています。そこで私はお母さんになぜ皮ごと入れているのか聞いたら、皮には栄養があるのだと言っていました。私は他にも皮ごと食べられるものはないかを調べてみました。すると、りんご、梨、キウイフルーツ、大根、にんじん、長芋、ごぼうは皮ごと食べられることが分かりました。皮ごと食べることで栄養を取ることも、食品ロスを減らすこともでき、さらに料理の時

間短縮にもなるのです。

三つ目は、フードバンクに寄付することです。世界中の9人に1人は栄養不足で苦しんでいます。そこでその人たちのために自分が好きではない食品などをもらった時や使い切れない食品が出た時などにフードバンクに食品を寄付すると貧困で困っている人にその食品をおくることができるのです。フードバンクに寄付することで誰かの命を救うことができるかもしれないのです。

食品ロスを出すと大量の食べ物が無駄になるだけではなく、環境の悪化や将来的な人口増加による食料危機にも適切に対応できなくなります。将来的にも、命を救うためにも、今できることから始めてみませんか。

10 みんなとこれからできること

横浜市立藤の木小学校 6年 阿部 風

みなさんにとって、海はどのような存在ですか。僕にとって、海は、守りたい大切な存在です。僕は、今年の3月に沖縄県にある小さな島の竹富島から、横浜に引っこしてきました。竹富島は、海に囲まれた小さな島で、僕は、その島に一つだけある小学校に通い、海と深く関わる環境で育ちました。島では、暖かくなると、海に行き泳いだり、もずくやアーサという海藻を学校のみんなで取りに行き給食のおかずとして、食べたりします。

僕は、4年生のときに、オープンウォーターダイバーという資格を取って、サンゴと魚がいっぱいの海でダイビングをしました。

しかし、その竹富島の海も全部がきれいかと言うと、そうではありません。海岸には、日本や外国からのゴミがたくさん流れ着きます。外国語が書かれたペットボトル、発泡スチロール、ビニール袋、魚の漁に使うロープ、壊れたビーチサンダル。そのため、島では、みんなで浜のゴミを拾う「ビーチクリーン」という活動をしています。

僕は、海洋教育サミットという集会上、学校の代表として参加していました。そこでは、自分達の海での体験を発表したり、他の島の人達と海について意見交かんをしたりしました。海洋教育サミットに参加してわかったことは、竹富島だけではなく、他の島でも同じ問題を抱えているということです。

僕は、横浜市民になりました。横浜の海は、竹富島の海につながっています。竹富島の人口は約350人ですが、横浜市は350万人以上です。横浜の海で、海藻を採って食べたり、潜ってサンゴを見たりすることはできません。

しかし、南の海の現状を大勢の人に伝えることで、みんなが行動するきっかけになります。横浜でも僕は友達ができるようになりました。その友達らも今ビーチクリーンに興味をもって来ています。

つながっていくことで、今までよりも、もっと大きな力で、海を守れるようになると思いませんか？

みんなとこれからできること。海に親しんで、海のことをもっと知ること。そして行動する人が増えること。それが、海を守ることに繋がると、僕は信じています。

11 命に関わる水を守ろう

横浜市立藤の木小学校 6年 星原 葵

蛇口をしっかり閉め忘れて、ポタポタと水が流れている状態で次の日になってしまった時どのくらいの水が無だになると思いますか。私は以前学校の水道の蛇口から水がポタポタと流れているのを見かけたことがありましたが、私のしめ忘れではなかったもので、そのまま通りすぎた事があります。しかし、その時無だに流れた水の量は10リットル、バケツ1ばい分の水です。世界で日本のように蛇口をひねればいつでも清潔で安全な飲み水が出てくる国は、たった9か国しかありません。そして安全に管理された飲み水を得られない人は22億人もいます。先ほどの蛇口を閉め忘れて流した10リットルのきれいな水があれば、どれだけの人が喜んで飲むことができたでしょうか。さらにもし蛇口を閉め忘れた人が何人もいたとしたらどうなるでしょう。私はバスケットボールを習っていて夏にはたくさんの量のお茶を飲むのですが、すいとうの中身がなくなってしまうとすごくのどがかわいてつらい思いをした経験があります。でも世界ではこのような生活を毎日のように送っている人々がいるのだと思うとすごく心が重くなります。世界ではおせんされた水を飲み、病気でなくなってしまう子どもの数は1日で800人以上います。その他に不衛生な水が原因により、年間で180万人の人がなくなっています。エスディージェズの安全な水とトイレを世界中にという目標が土台になるような命に関わる根本的な問題だと思いました。

私が蛇口をひねるとすぐに清潔な水が出てくる国に生まれたからといって、水を無だに使っていいというわけではなかったのです。そこで私はエスディージェズの目標達成に近づける取り組みをしようと決意しました。そのために私ができる事は二つあります。一つ目は水を無だにしない事です。例えばシャワーを使って頭を洗う時に、シャワーを1分間流しっぱなしにすると12リットル無だにすることになります。私たちはシャワーをこまめに止めることで水を節約することができます。他にもトイレを流す時に常に大で流すのではなく、大と小を使い分ける事で1回につき2リットルの水を節約する事が出来ます。このような小さなことでも、みんなが心がければたくさんの水の量が節約できると思います。二つ目は水の大切さをみんなに伝えて、みんなに協力してもらうことです。そこで私は学校の水道に節水ポスターをはらせてもらうことにしました。全校のみんなが節水を心がけてより多くの国にきれいな水がとどくことにつながれば良いなと思います。また学校内だけでなく一人でも多くの人に水の大切さと、節水をよびかけて清潔な水を飲める人を一人でも増やしたいです。

12 だれかへの「いいね」で世界に虹を

横浜市立別所小学校 6年 金野 未侑

コロナの流行の落ち着きがみられるようになった今年の春、3年ぶりに親戚が家に遊びに来る事になりました。妹のシンデレラのドレスを着るのをとても楽しみにしていたようで、ご飯を食べおわるとすぐに着替えたいと私にせがみ、私と妹は着替えを手伝ってあげました。彼は、5歳の男の子です。

11人に1人がトランスジェンダーと言われているこの社会で、日本はまだ受け入れていないように映ります。以前、球技大会の時に男子が女子に負けた事があったのですが、「女子なんかを負けたのか。」という会話が耳に飛び込んでくる事がありました。このような会話が交わされる度に、見えない壁が積み上がっていくように感じます。固定概念で生きにくい世界にしているのは私達ではないでしょうか。

「僕はドレスが着たい」素直に表現できる彼が私にはまぶしく目に映りました。自分の好きな事、やりたい事をどこに行っても胸を張って言う事ができる優しい社会を創っていきたいです。

「女の子」らしく「男の子」らしくといった考えは誰かを傷つける凶器になりえます。言葉は時に鋭いナイフになりえるし、反対に誰かの心を温かく照らす光にもなります。

多様性のある生き方が認められつつある世界になった今こそ、視野を広げお互いに認め合うということ意識していけばきっと大きな想いになると思います。

誰もが「自由」で「平等」に自分の気持ちを表現できる社会になるようこの想いを原稿にこめました。私はたくさんの人に伝えていきたい、あなたの意見を聞かせてと。小さい所に神は宿るとい言葉があります。身近で小さい声かけなど自分に出来る事を重ねて、色とりどりの個性が溢れる世の中を作っていくのは私たちです。虹はたくさん色があるからこそ美しい。

すべての人が好きな事や得意な事を誰かの目にとらわれず自由に発信できるようになればどんな世界が広がるでしょう。みなさんも一緒に考えてみませんか。

13 命を助ける人になりたい

横浜市立南小学校 6年 音澤 佑香

将来、私は医者になりたいです。そのようになりたいと思うきっかけになった一つ目は、幼いころから肌荒れがひどく、ひんぱんに病院へ通っていたことです。病院の先生は、いつも笑顔で診察してくれ、なかなか治らなくても「大丈夫だよ。」と優しく対応してくれました。ほんのささいなことだけれど、注射も安心させてくれたので、注射を怖がらなくなりました。

2つ目のきっかけは、1年生の時に入院したことです。急病で入院したため、訳の分からないことばかりで怖くて嫌でした。1人部屋の時は、面会時間外では家族も誰もいなくてひとりぼっちで

とても不安になりました。しかし、さびしくなくなったのは病院の先生や看護師さんがいたからです。点滴で体が不自由なときは、サポートやお話をしてくれて体調も良くなりました。また、検査によっては痛みを伴うものがあったため、不安がありました。その時の先生が「痛い時は、私の手を強く握ってね。」と声をかけてくれ、不安が軽くなりました。そして、病院に私よりも重い病気で入院している人もいました。そういう光景を見て、苦しんでいる人を助けられる人になりたいと思いました。

3つ目は、鳥を飼い、鳥の保護団体と出会ったことです。鳥の保護団体ではいろいろな鳥に出会いました。たとえば、しゃべれないからといって、壁に叩きつけられてしまった鳥、ペットショップで売れ残ってしまった鳥。これだけでなく様々な理由で保護されている鳥がいました。鳥にも感情があり、心がある。その鳥に寄り添い、最善を尽くして保護する活動をしている人たちが、かっこいいなと私は感じました。鳥を通して、私は命の重みを知らされました。

大切な命があるから、病気で亡くなってしまうなんてもったいない。だから、病気の人を治して元気に生きてほしいと思いました。だから、私は医者になりたいです。全ての命を助けられなくても、自分のできる力で人を助けたい。でも、今までの経験を通して命を助けることだけが医者ではないのだと知りました。だから、私は寄り添うことのできる医者になりたいです。

14 私の街の春夏秋冬

横浜市立南小学校 6年 塩田 優駿

私の街、横浜市南区は横浜市の人口11位で、人口密度が1位です。南区には大きな商店街が2つあります。横浜橋通商店街と弘明寺商店街です。横浜橋通商店街はとて大きく肉や魚、色々な国の食べ物や物が売られています。弘明寺商店街は、弘明寺観音や大岡川があって、1年中にぎわっています。私は弘明寺商店街の近くに住んでいるので、よく買い物に行きます。おそうざい屋さんのお弁当がとてもおいしいです。私の街は1年間に色々な楽しみがあります。

私は、お正月になると弘明観音へ初もうでに行き、おみくじを引きます。大吉を引いた時はうれしくなります。

春になると大岡川に沿って桜が咲きます。夜にはライトアップされます。桜の花びらが散り始めると、川に花びらが浮びピンク色に染まります。とても幻想的です。私の楽しみは出店で射的をしたり、焼きそばを食べたりすることです。お花見をしている人達は、お弁当を広げたりお酒を飲んだりして楽しんでいます。

夏は弘明寺公園のプールに友達と遊びに行きます。1時間に1度の休けい時間にあっという間になってしまうほど、夢中になって遊びます。

私の通う南小学校では、秋に運動会が行われます。私の学校では6年生はソーラン節をおどることになっています。今までの運動会の思い出は、80メートル走です。私は走ることが得意ではありませんが、1位を勝ち取った時はうれしかったです。コロナ禍で全体で運動会をすることができなかったけれど、今年はみんなで競技をしたり応援したりしたいです。

冬になると時々雪が降ります。雪が積もった時は学校の校庭で友達と雪合戦をしたり雪だるまを作ったりして楽しかったです。

私は、冬が好きです。暑がりなので寒いほうがうれしくなります。街の色々な所でイルミネーションが見られたりするのでも楽しいです。

私の家族は、父方の曾祖父母が名古屋から60年ほど前に移り住んで来てから、ずっと南区に住み続けています。祖父は井土ヶ谷小学校、父と母は永田中学校を卒業しています。母の祖父母もいとこ達も南区に住んでいるので、よく母の実家で集まり食事をしたりします。いつまでも家族で楽しく過ごせたらいいなと思います。

私は、自然を大切にしながら家族とともに緑豊かな街を守っていきたいと思います。

15 ぼくにとって大切なもの

南吉田小学校 6年 富山 大空翔

ぼくが大切に思っているものはたくさんある。その中でも一番大切に思っているのは、家族だ。お母さん、お父さん、そしてネコのラテと、ハムスターのきなこだ。人間だけではなく、動物も大切な家族の一員だ。

ぼくは夏休みに、ホームセンターに行って動物のコーナーを見ていたら、棚に「エサ」と書かれているのを見て、とてもいやな気持ちになった。例えば、ぼくが家族に「エサを食べなさい。」と言われたらとても嫌な気持ちになるからだ。だから、ぼくはラテときなこの食事を「エサ」ではなく、「ごはん」と言うようにしています。言葉一つですが、家族を大切に思っている気持ちが表れる一言だと思いました。

では、どうしてエサという言葉があるのだろうか？と不思議に思い、言葉の意味を調べてみる事にした。すると、意味の中の一つがとてもひどく、悲しくなりました。なぜなら、「生き物の食べ物。食事をわざと下品にいう言葉。」であると記されていたからだ。家族の食事の事をどうして下品に言うのか、意味を調べてますますわからなくなった。これ以外にも、「動物を飼う」という言葉にも疑問を感じました。ぼくにとっては、ラテもきなこも大切な家の一員なので「飼っている。」というよりも「一緒に暮らしている」と思っています。

ラテはもうおじいちゃんだし、きなこはハムスターなので寿命が短いので、亡くなってしまうまで一日一日を大切にしながら、過ごしていきたいです。

16 私の小学校生活

横浜市立南吉田小学校 6年 兪 瑠婷

あっという間に小学校生活も終わりです。忘れられない小学校生活は、6年かけて完成した曲のように、その一音一音に6年間の成長が詰まっています。何もわからなかった幼児からわたしたちは、あっという間に中学生になります。

この6年間、私に付き添ってくれた先生や友達は私にたくさんの記憶と思い出をもたらしてくれました。静かで心地よい学校で、私たちは少しずつ成長しています。年に一度の運動会では、6年間一緒に過ごした友達と切磋琢磨し、たくさんの1位を達成します。運動会で行う種目も私達は連日練習してきました。

特に6年生は勉強面でも、お互いに助け合いながら頑張っていて成長しています。毎回のテストでは、自分に足りない点や短所に気づき改善しようと取り組むきっかけになっています。

正直、この忘れられない小学校生活は全話の連続ドラマのようなもので、このドラマは再放送がありません。第1話が見知らぬ人々、第2話が幼稚、第3話が単純、第4話を成長、第5話を成熟、第6話を忘れられない思い出とたとえられるでしょう。

1年生の時私は急いで卒業したいと思っていましたが、今、私は6年生になって、もうすぐ卒業するから、今、時間がゆっくり過ぎてほしいと思うようになりました。あと数か月で卒業します。教室の読書の声と友だちの笑い声が忘れられません。この6年間の道のりは、私たちにとってとても険しく、ですがとても楽しい日々でした。私たちは涙を流しましたが、その日々には、同時にいつも笑いが伴っていました。6年の歳月は、長くも感じますが、今別れに直面すると、これまでの時間があっというまに感じられます。母校の隅々に私たちの友情、私たちの夢が植えられています。私の記憶の中で美しく忘れられない思い出になります。

卒業は、終わりではなく、新しい始まりと言えるでしょう。いつかまた人生の頂きで再会することをねがっています。

17 生き物を守り「続ける一人」になりたい

横浜市立六つ川小学校 6年 尾崎 友風

みなさんの中でプラスチックを食べたことがある人はいますか？ほとんどの人は食べたことなんてあるわけないと思っているでしょう。私も食べたことないと思っていました。しかし、実は、私たちは知らない間にプラスチックを食べているのです。なんと、1週間にクレジットカード1枚、1か月にハンガー1本分のプラスチックを食べていることを知り、びっくりしました。

それはなぜでしょう？なぜなら、人間は魚を食べているからです。なぜ魚を食べるとプラスチックを食べていることになるのか、分かりますか？それは、魚がえさとまちがえて海にただよって

るマイクロプラスチックや海洋性プラスチックを食べてしまい、その魚を私たちが食べているからなのです。私は以前、ウミガメがポリ袋を食べている写真を見て不思議に思い、調べてみたことがあります。するとウミガメはポリ袋をえさのクラゲとまちがえて食べていることがわかりました。その時のショックと切なさは忘れられません。

私は6才の時、海に行き、たくさんのごみが浜辺に落ちていておどろきました。このごみが海に入ると生き物に被害が出ると思い、家族でごみ拾いに参加しました。みんなで協力してごみを拾い海にただよわないようにしました。それでもまだまだ海にはたくさんのごみがあり、悪いえいきょうが出ないか心配です。

街中に散乱したごみが風に飛ばされ、雨に流れ、排水溝から川に流れ、海にたどり着く。六つ川小でも去年までプラスチックストローを使っていました。その時、流し場にストローやストローの袋が落ちていました。私は「よく落ちているなあ。」と軽い気持ちでいました。今考えるとストローが排水溝を流れ海に行く可能性があり、大きな問題だったなと深く反省しました。すべての原因は、私たち人間。人間が原因を作らなければこのような結果にはなっていないと思います。

私たちがプラスチックを減らす努力を続けていかなければ、2050年には魚よりプラスチックごみの量が多い海になると予測されています。私は街中のごみをしっかりごみ箱に入れること、今までのようにマイバッグを持って買い物に行くこと、一つずつ袋に入っているものをできるだけ買わないようにすることなど、小さなことでも見つけて続けていきたいと思っています。

私は6年生になって「したい人、10,000人。始める人、100人。続ける人、1人。」という言葉を知りました。私が住むこの美しい地球の環境を少しでも良くしていけるよう、できることを「続ける1人」になりたいと思っています。

18 争いのない世界へ

横浜市立六つ川小学校 6年 桑島 姫花

みなさんは今、世界が平和だと思いますか。私は平和だとは思えません。現在、差別やいじめが増えていたり、ロシアとウクライナで戦争をしていたり、たくさんの方がいます。では、世界が平和になるためにはどんなことが大切なのでしょう。

1945年、みなさんが一度でも聞いた事のある原子爆弾が、広島県と長崎県に落とされました。どちらに落とされた原爆も爆発後、たくさんの方放射線というエネルギーが放出され、生物に大きなえいきょうを与えました。被害は放射線だけでなく、爆心地周辺の温度は4,000度を超え、ひふは焼きつくされ、爆風によって人も建物も吹き飛ばされました。このたった一つの爆弾のせいで約14万人もの人が亡くなったというのです。その中で生き残った人は臨時列車に乗りました。「私の被爆体験記」というサイトには、車内は足のふみ場もなく、火傷で真っ黒になり顔の見分けの付かない人、血を吐きながら息絶えた人もいて、「まさに地獄列車だった」と思ったそうです。地獄と表す程に辛くおそろしかった事が分かります。実際に体験しないとうまく伝わらないこともありますが、私はこのサイトを読んだときにとってもおそろしいと感じました。それから広島には、75

年間は草木は生えないだろうと言われていたそうです。ですが、原爆が落とされた年の秋に、真っ赤なカンナの花が一輪咲いたそうです。75年間も草木は生えないと言われてたのに、わずか数か月もの間で花が咲いたことに私はすごくおどろきました。今ではカンナは平和の花と呼ばれているそうです。この一輪のカンナに生き残った人々はきっと希望を持ち勇気づけられたんだと思います。

突然ですが、「20世紀は戦争の時代」という言葉があります。この言葉には「21世紀をむかえた時に、二度と戦争や紛争をくり返さないようにするため」という意味がこめられています。ですが、21世紀をむかえても戦争や紛争はなくなっていないです。けれど、広島に咲いたカンナの花のように、強く希望を持って争いのない世界を目指して生きていきましょう。

19 殺処分のない世界

横浜市立六つ川台小学校 6年 小林 流碧

みなさんも一度は犬を飼ってみたいと思ったことがあると思います。かわいいから飼ってみたい、その様に思った人が多いと思います。だけど、実際に飼ってみると飼うのがめんどくさい、お金がかかりすぎ、言うことを聞かない、最初は、可愛いと思っていても、いざ飼うと大変なことがたくさんあります。

ぼくも犬を飼っています。だけど、最近、犬が病気にかかってしまい、たくさんお金がかかる様になりました。それでもぼくの親は犬を飼っています。

だけど世界では、お金がかかるから手放す、言うことを聞かないから手放す、さらには虐待をする人だっています。

犬たちは、なにも罪がないのに足を失ったり、目が片方開かなくなったりと虐待をされて、捨てられてしまいます。そして保護されます。だがこれで安心ではありません。保護されて、飼い主が見つからないと殺処分されてしまいます。だけど、その殺処분을なくすために保護所の人たちが努力をしています。ですがこの問題は犬を放棄している人が行動を変えないと、犬たちは救えません。

犬たちは、物ではありません、虐待をするためにいるわけでもありません。命なのです。犬たちだって一生けん命毎日生きています。犬たちを大切に飼わなければなりません。犬たちを飼うならしっかりと命を預かり、犬の最後をしっかりと見届けてあげなければならないのです。

20 国際平和のためにできること

横浜市立六つ川西小学校 6年 草野 実希

『国際平和のために、今自分ができるとはなにか』

と考えたとき、はじめは何も思いつきませんでした。今の自分にできることなんてあるのだろうかと思ったからです。しかし、飢餓や貧困によって尊い命が失われる前に、その命をできるだけ多く救いたいと考えました。

私が、飢餓や貧困、病気によって苦しんでいる人を救いたいと思ったのには、理由があります。

私が喘息で通っていた病院の生先方が、世界の子どもたちを救うボランティア活動をしていたからです。病院にあった掲示板には、ボランティア活動をしている先生方の写真が貼ってありました。私はそれを見て、国境を越えて活動している先生方に憧れました。

このように、国境を越えて活動することによって、多くの尊い命を守ることができるのです。

今、世界では、約8億人以上もの人々が飢餓や貧困、病気によって苦しんでいます。その人たちは、普段の食事に不安を抱くだけでなく、栄養不足などで病気になってしまい、さらに深刻になると命を落としてしまうこともあります。

そんな現状を知って、つらい気持ちでいっぱいになりました。今、先進国で生きている私たちは、何気なく食べ物や水を残し、すててしまうことがあります。体調を崩したときには、すぐに病院に頼ることができます。しかし、世界の国々はそうではありません。私たちが当たり前のように受けていたたくさんの「幸せ」に感謝しつつも、今苦しんでいる人たちに、とても申し訳ない気持ちになりました。

私は将来、医者になりたいです。昔から医者になりたいと思っていたけれど、飢餓や貧困、病気によって、苦しんでいる人が世界には数えきれないほどいることを知り、さらに医者になりたいという気持ちが高まりました。そして、私が通っていた病院の先生方のように、国境を超えて活動し、世界の多くの尊い命を守りたいなと思いました。

この文章の最初では、「自分にできることなんて思いつかない」と書きましたが、将来自分が国際平和のためにやりたいことを、自分の経験を通して決めることができました。今の自分の将来の目標だけでなく、他に自分にできそうなことを、模索していきたいと思います。

中学生・高校生・一般の部

テーマ1 区制80周年をむかえた南区について

(私の街・私の学校・私の家族など)

1 ぼくの家族

横浜市立共進中学校 1年 石浦 志音

僕の家族は、母、父、姉、弟、妹の6人家族です。いつも笑顔にあふれています。父、母は共働きのため、学校から帰っても家にいません。寂しいと感じる時もありますが、僕たちのために汗水流して頑張ってくれていることに感謝しています。休みの日は、仕事で疲れてゆっくりしたいはずなのに、「どっか行きたい」という僕たちのわがままにプールやショッピング、遊びに連れて行ってくれるし、習い事の送迎、学校行事には仕事の都合をつけてすべて来てくれます。だから父、母のおかげで、何不自由なく暮らせています。

僕は家事の手伝いをしています、最初は、お駄賃がもらえるという不純な理由がきっかけでしたが、今はお駄賃のためではなく、少しでも家族の役に立ちたい、「ありがとう。助かったよ。」と言われる嬉しさ、そしてお母さんが笑顔になってくれることが一番です。ぼくは家族みんなの笑顔が大好きです。みんなが笑顔でいてくれることがぼくの幸せです。これからもぼくができることはやっ
ていこうと思います。

この幸せな毎日が当たり前ではないことは虐待や食べることができない世界の子どもたちのニュースなどを見た時に思います。誰もが幸せな毎日を過ごすのは難しい世の中なのかもしれないですが、一人でも多くの人が笑顔で過ごせる毎日が来てほしいと思います。おいしいご飯が食べられること、欲しいものを買ってもらえること、親からの愛をもらえること、やりたいことをやらせてもらって
ること、僕にとって当たり前になっていますが、常に感謝の気持ちを忘れずに過ごしていかなければと改めて思いました。

2 空の家族

横浜市立平楽中学校 1年 長谷川 心桜

私は、父、母、妹の4人家族です。ですが本当は5人家族です。実は私が生まれる前に母のお腹に赤ちゃんが来ました。その子は「空」と言います。父と母はとても喜びましたが、妊娠して間もなく、赤ちゃんは空に帰ってしまいました。それから私が生まれ、母はよく私に、空の話をして
くれました。小さい頃の私はその話を聞かされたときに、「空ちゃんに会いたいな。どうして空に帰っちゃったんだろう。」と
思っていました。

そんなある日、幼かった私を父が公園に連れて行ってくれた日のことです。一人ですべり台をす

べっていると、後ろから「心桜ちゃん、一緒に遊ぼう。」と話しかけられました。その子は私より少し大きく、すぐに仲良くなり、まるで姉妹のように 1 日中遊んでいました。そして、帰り際に「心桜ちゃん、これあげる。」と、花束をくれました。それは淡い青色に、紫が混じった綺麗な花でした。家に帰り、母に見せると、母はとても驚きました。なぜならその日は空の命日で、空のために花を買いに行こうと思っていたからです。そしてその青い花は母の大好きな花でした。この日の不思議な出来事は今でも家族と「空ちゃんが会いに来てくれたのかもね。」と、話すことがあります。または、もしかしたら私は空の生まれ変わりなのかなと思うこともあります。

私は今生きています。でもこの命は、あたり前ではなく沢山の思いや奇跡が重なって生まれた命なんだと思います。今過ごしている日常、勉強やテスト。めんどくさい事も沢山あり、投げ出しなくなる事も沢山あります。でも世界には学校にすら行けない子供達や、生まれてこれない命もあります。ですから世界に一つの自分の命に感謝し、自分を大事にしていこうと思います。このことは空が教えてくれました。空は、空を見上げればいつでも会える、私の大切な家族です。

3 心地のよい地域

横浜市立永田中学校 2年 田中 杏

私の地域の人たちは挨拶上手です。学校の行き帰りなど、「こんにちは。」や「いってらっしゃい。」と心地の良い挨拶をしてくれます。

こうやって挨拶をしてくれる人がいるから、いい地域ができあがるんだなと思います。

けれどいいことだけではありません。私の地域は少し坂の下にあります。坂と私の地域をつなぐ階段があって私の学校は坂の上にあるのでその階段が通学路になっています。

ある日いつもどおり学校へ向うため階段を通っていると、ごみが落ちていました。その日は学校の行きだったので拾ったごみを学校に持ち込むわけにはいかないと見過ごしました。帰ってきて、階段を見てみると、なんとごみがきれいになっていました。この地域の人たちは挨拶だけでなく掃除も上手なことに気づき、すごいなと思いました。

その後もごみが落ちていることが何度もありました。その度にきれいに掃除されていてお礼を言いたいのですが、ごみを捨てていく人も、それを掃除してくれている人も見たことがないのです。

そうやって自分が散らかしたわけでもないけど掃除してくれたり、目立たなくとも誰かのために行動できる人がいてくれるからみんなが心地よく過ごせる地域ができ上がっているんだなと思い、もっとこの地域が好きになれた気がしました。

私もこの地域を支えられるよう、まずは、心地の良い挨拶から心がけていこうと思います。

4 私の学校・私の生活

横浜市立永田中学校 2年 富川 菜々美

私がかよっている学校は、小学校のときとは少し違うような気がした。まるで私のことを温かく見守ってくれてるかのよう。

私の学校はあいさつ運動をやっている。それは学校を1日気持ち良く過ごせるように校風委員会が門に立って「おはようございます。」と生徒にあいさつをする取り組みだ。私が学校につくと「おはようございます。」と喋ってくれる。でも私はどうしても恥ずかしくて小さい声でぼそっと「おはようございます。」とかえすことが多い。本当は大きい声をだしたい。そんな私をかえてくれたのはこの学校だ。部活では、先生が帰るときや来るときにあいさつをしてと言われてる。最初はどうしても小さい声になってしまうけどだんだん声を大きくして「おつかれ様です。」などのあいさつをするようになった。あいさつする機会が増えると出来るようになるんだと思った。また、授業が終わってろう下に行くとき先生によく会う。先生からあいさつしてくれるので自分からもあいさつができる。だんだんあいさつすることが恥ずかしいという自分の中での認識がうすれていった。

それから私は学校に行くときたくさんあいさつをするようになった。あいさつ運動、部活、先生、地域の人とあいさつをする。あいさつをすることで今日も頑張ろうと思えることが増えてきた。あいさつは、人を笑顔にする気持ちの良い日々を送れる。あいさつにはそんなパワーがある。

5 『行きたくない』から『行きたい』へ

横浜市立藤の木中学校 2年 濱野 歩夢

私は今、中学生です。ですが、小学生の時は学校に行きたくありませんでした。そんな私が楽しく学校に行けるようになったお話です。

私は、小学生の時学校に行きませんでした。理由は最初、自分でも分からず、先生や両親に伝えることができませんでした。だから、ずっと泣いていて、今思うとたくさんめいわくをかけたと思います。そんな私が、学校に行けるようになった方法を紹介します。

一つ目は、保健室に登校することです。最初から教室に行くのが難しかったので、保健室に登校して、教室に行く前に気持ちを落ち着かせたり、勉強をしたり、先生と話したりして少しでも学校に行けるようにリズムを自分で作ったりしました。そして、私は話すことが得意ではないので、辛いことを紙などに書いて伝えたりしました。紙に書くだけでも気持ちが楽になります。ぜひ、やんでいたらやってみてほしいです。

二つ目は、友達です。私は、これが『一番』学校生活が大きくなりました。なぜかという、私が学校に行った時、友達がおらず、教室にいるのがいやだったからです。

だけど、ある日教室に行ったときに、今の友達が声をかけてくれたり、一緒に下校をしたりする

友達ができて私は、学校に行くのが楽しくなりました。そして、次の日がかかるのが楽しくなってきました。今思うと学校に行くリズムを作ってくれた友達に感謝をしたいです。本当にありがとう。

私は、この2つをやって学校に行けるようになりました。あなたが、もし学校に行けなくなったら何をしますか。そして、もし学校にこれてない友達やクラスメイトがいたらどんなふうにせつめますか。私は、この話をして「一人じゃないよ」、「大丈夫だよ」と伝えてすこしでもこれるようになりたいです。

また、小学校から仲良くしてくれる友達や大親友に「ありがとう」、「これからもよろしくね」と伝えたいです。

中学生になった今、私は昔よりも、もっと学校が楽しくなりました、最高の友達・部活のチームメイト、そして、2人の大好きな大親友、そしてどんな時もそばにいてくれた両親がいるから今、最高の楽しい学校生活がおくれています。

最後に本当にありがとう

これからもよろしくね

6 ランキング一位を目指して…

横浜市立共進中学校 3年 柚木 太陽

南区をもっと活性化させたい。そう思うようになったのは今年の夏休みからだ。夏休み中、私は公私合同説明会や、家族で出かける時、他の区に行くことがあった。すると、いつもは特になにも思わなかったのに、今回はキラキラして見えた。何でそう見えたか考えた時、今年が受験生だから周りを意識していたのだと思う。極め付けは夏休み中ある学校の説明会に行く機会があった。その時、来ていた人を見ると自分より大人っぽい人がたくさん居たのである。今思い返せば部活で他の区の中と対戦した時も同じ事を思っていた。これは自分の見た目の問題かも知れないが何か南区にもこう見えてしまう原因があるかも知れないと思い、南区のことを調べることにした。

まず、横浜市の住みたい区ランキングを調べてみた。街の住みこちランキング 2023 によると南区は 10 位以内どころかランキングにも入っていなかった。次に南区のイメージを調べることにした。色々なサイトを見てみたがどれも横浜市中心地のような華やかさや大きな建物は少なく、下町の風情が残っている事が書いてあった。これは良く言えば昔ながらの町と言えるが、悪く言うと昔から何も変わっていない町とも言ってしまう。自分は昔から南区で過ごしているのでこの結果を見て少し残念だった。そこで自分にも南区を良くするためにできることをいくつか考えてみた。一つ目はボランティア活動だ。ここ南区では定期的に大岡川などでごみ拾いが行われている。それに参加すれば南区はゴミが少ない町として有名になるかも知れないのだ。二つ目は横浜橋通商店街を活性化させることだ。どう活性化させるかと言うと例えば南区の小中高生が商店街に関するパンフレットを作り、校外で配る。するとそのパンフレットを貰った人が商店街に行けば活性化され、その様子がテレビに映れば色々な所から観光客が南区にくるかも知れないのだ。

このように南区には伸びしろがたくさんあるのだ。だからこそ一人一人がボランティア活動などをする事で南区がランキング 1 位になるのもそう遠くないのかも知れない。

7 引き継ぎたい「魅力」

横浜市立永田中学校 3年 金田 弥陽

私たちが住んでいるまち、「南区」は、今年で 80 周年を迎えます。1943 年 12 月に中区から分区して誕生した南区は、横浜大空襲による大きな被害や関東大震災、市街地急拡大などの時代の波を乗り越えてきました。区庁舎の発展も現在の「災害時に区民をサポートできる庁舎」、区民に寄り添える「地域性に配慮する庁舎」に至るまで長い年月を要しました。

歴史ある神社や仏閣、賑やかな商店街、自然あふれる街なみやあたたかい雰囲気などの様々な魅力をつくりあげた南区。その魅力の中でも、存在感を増しているのが「さくら」です。区の花として制定されているさくら。これを広めるためにどんな取り組みが行われているのでしょうか。

まず、桜を身近に感じることができるイベントが数多く開かれています。大岡川プロムナードでは、毎年 3 月に行われる桜まつりの時に約 500 本もの満開の桜を見ることができます。私は、新型コロナウイルスの影響で中止になるまで毎回桜まつりに行っていました。歩道を覆っているトンネルのような桜、きれいにライトアップされたぼんぼり、川に散った桜の花びらが作り出すピンク色の川がとてもきれいだったことを覚えています。

蒔田公園のステージパフォーマンスも歴史があるものがいくつかあり、とても楽しかったです。イベントの開催の他にも南区では未来の子供たちに桜並木を引き継ぐ取り組みをしています。

より多くの人々に桜を身近に感じてもらえるように公園愛護会や小学校、保育園と協力し、さくらの普及花であるサクラソウやシバザクラを増やす取り組みを行っているそうです。南区さくら貯金振興会では、さくらの保全のために募金活動を行い、160 本以上もの桜の植樹をしています。他にも、大岡川プロムナード整備の時に伐採した桜の木を無償で配布したり、「さくら」を育ててくれる区民を募集したりしています。

私は自分のまちが何を大切にしているか、どんな文化があるのかさえ知りませんでした。しかし、この機会に 80 年という長い年月を経て盛り上がってきた私たちのまちをもっと知っていききたい、そして自分も南区のために何か取り組みたいと思いました。

今は受験生でイベントに参加しにくい時ですが、将来の仕事に「自分たちのまちのためになること」を新たな選択肢として考えてみるのもいいと思いました。

中学生・高校生・一般の部

テーマ2 ルールとマナーについて

(スマホ・ゲーム・お酒・たばこ・薬物など)

1 町の人とボランティア

横浜市立共進中学校 1年 陳 安安

今年の夏休み、会長である母の手伝いに、町の子どもたちにお菓子を配るというボランティアに参加した。小学生の時に引っこして来た時、未知の町にすこしわくわくしていたのを今だに思い出す事がある。今となっては、熟知している町でも、まだ町の人と関わるのがめんどくさいと思う自分がいた。今回のボランティアもすこしめんどうだと思った。母にすすめられ、しぶしぶ参加したボランティアで、町の人々の気前の良さ、優しさ、そして感謝するあたたかい気持ちを身をもって感じた。

私が今回担当したのは、お菓子をもらいに来た子どもたちに一言をそえて、お菓子をわたす担当だった。正直言うと、一番やりたくない仕事だった。元気な「こんにちは!」をどう返せば良いのか、一言にはなんて書けば良いのかさっぱり分からない。おまけに助けてくれようとした大人の方たちにも「大丈夫です」とぶっきらぼうに返してしまった。それでも町の人たちは、私を助けてくれた。恥ずかしながら子どもたちにも助けてもらった。ここまで尽くしてもらえたのは、初めてだったので、緊張やら恥ずかしいやらで固まってしまった。しかし、お礼の気持ちを伝えねばと思い一人一人に「ありがとう」という気持ちを伝えた。すると「どういたしまして」と返してくれた。感謝されるのはいい気分になれるけど、感謝するとあたたかい気持ちにしてくれるんだと改めて実感した。

私の小さい頃は、人と関わるのがめんどくさいという理由だけでボランティアに参加しようともしなかった。その時の私は、本当に嫌な奴だったと思う。親しい人々とだけ仲良くやっていけばいい、友達と仲良くすればいいとそんな甘い考え方で関わりの輪が本当にせまかった。知らない人とは、あいさつというが頭を下げておじぎするだけだった。今となっては、あの時、もっと積極的に行動してたら、もっとボランティアに参加してみればもっと早く町の人々の良さに気がつけたのかもかもしれないと思うととても残念だった。

ボランティアは、町の人と関わる機会に良いと思う。見た目からしてヤバそうな人は、子どもによく好かれる人だ、や、あの子のお母さんは、絵を描くのがとても上手だ、など、今までは、こういう価値観で見てても、参加して、交流を増すと意外な一面を発見できるかもしれない。私はこのボランティアで、今までの人との関わり方を見直した。すると、今まで以上に町の方々とは仲良くする事が出来た。また、自分から挨拶したり、何かしてもらった時は、必ず感謝するようにした。私は、このあたたかい気持ちを忘れない。ボランティアを通じて、もっと町の事を知りたい。そして、感謝され、感謝が出来て、町の人々同士で助け合える人になりたい。

2 私たちの力

横浜市立永田中学校 1年 浅香 美咲

私たちの街南区には、環状1号、平戸桜木道路、鎌倉街道など、とても大きな道路が多数通っており、車社会交通の便利さを感じ、私にとって、とても住みやすい街です。ただ、街全体を見てみると、色々な問題点があり、街に住む人全員が住みやすい街ではないとも感じます。

そんなある日私の祖父が、横断歩道もない所で、道路を横切っているところを目撃し、とても驚きました。私が幼い頃は、手をつなぎ横断歩道の歩き方をやさしく教えてくれた、先生のような祖父。そんな姿とは一変していた祖父に「どうしてちゃんと横断歩道を渡らないで、道を横切っているの。」と聞くと「横断歩道まで歩くのが面倒だから。今は、車がきてないから大丈夫だよ。」と衝撃的な一言。でも、交通のルールというのは、誰一人破ってはいけないものだし、破ってしまうと、命に関わる危険があり、その人だけではなく周りの家族まで、悲しい思いをしてしまう。だから「横断歩道をちゃんと渡って。」と、強くお願いしました。それ以来祖父は、私との約束を守り、必ず横断歩道を渡るようになりました。私の親からは、「きっと孫に言われたから、しっかり話を聞いて守ってくれているんだと思うよ。」と、言われてうれしくなりました。

ですが、他の周りの高齢者を見てみると、やはり横断歩道ではない所を横切ったり、赤信号にも関わらず渡っている光景をよく目にし、とても悲しい気持ちになり、恐怖を覚えます。そうかと思えば、ランドセルを背おっている小学生は、信号を守り横断歩道を手を挙げて渡っている姿をみて温かい気持ちになります。どうして、このような横断歩道ではない所を横切ったり、赤信号を渡ったりするのかを考えると、祖父と同じで、面倒くさく、自分が行きたい場所まで最短で行こうとしているのだと思います。一方、高齢者全員がその一つの思いだけでこういった事をしているわけではないとも思います。高齢者の中でも、年の差、体力差があります。足が悪くて、信号が青の時間に間に合わず、横断歩道に取り残されたまま、赤信号へと変わってしまい、困っている方をよく見ます。

そんな方々の事を考えて、信号の秒数を少し長めに設定したり、小学校で行われる交通安全教室に地域の高齢者の方も招待し、小学生のような孫世代と一緒に参加してもらい、楽しく正しく交通ルールを学んでもらったりして、区や市、県が協力し、考え、改善していかなければならない問題だと思います。交通事故0で誰もが住みやすい街をめざして、私たちの魔法のような言葉の力で。

3 日常生活でのルールとマナー

横浜市立永田中学校 2年 平田 絵梨奈

私は校風委員として日々学校をより良くするためにどうすれば良いかを考えています。そこで、ルールとマナーについて考えようと思います。そもそもルールとマナーの違いは何でしょうか。私は「ルールは必ず守るもの、マナーは強要はできないが守るもの」と考えます。そこで私はこの違いについてと、なぜルールやマナーを守らなければならないのかを詳しく考えてみました。

まずルールについてです。私たちの身近にはルールがたくさんあります。法律をはじめ、校則、ネットの利用規約もルールの一つです。ルールが無くなると世の中はどうなってしまうのでしょうか。最初に校則が無くなってしまった場合です。制服や体操着を着崩す人が増え、派手な格好をする人も多くなり、周囲から「治安が悪い」と思われてしまいます。続いてネットのルールについてです。利用規約が無いと、悪口や暴言を書き込む人がより増えたり、見た人が不快になるものを投稿する人が増えてしまいます。このように、世の中にはルールが必須であり、守らなければならないのです。

次にマナーについてです。皆さんは、マナーと聞いて何を思い浮かべますか？バスや電車で席を譲る、近所や学校内ですれちがった人にあいさつをするということなどが思い浮かぶと思います。当たり前と思う人もいると思います。では、ルールが存在してもマナーが存在しない場合はどうなるのでしょうか。公共の場所で不快な思いをする人が増えてしまいます。また、あいさつが無くなることなどでコミュニケーションが減ることも考えられます。マナーがあり、それを守ることで皆が快適に過ごせるのです。しかし、法律で決まっているわけではないのでマナーをむやみに強要することはできません。ではなぜ学校でマナーを教わるのでしょうか。それは私たちが社会に出てからマナーの守れない非常識な大人にならないためです。ですが、先生や親たちも私たちにマナーを強要しているわけではなく、最終的にマナーを守れる大人になれるかは私たち自身にかかっているのです。

改めて、なぜ私たちはルールやマナーを守らなければならないのか。それは、ルール（特に法律）は守らないと罰則があって、守ると人々が気持ちよく生活できるからであり、マナーは守ることで人に与える印象も良くなり、みんながより幸せに生活できるからだと考えました。これからも校風委員として学校の人々がよりよく過ごせるように、「ルール」と「マナー」の二つを意識して頑張ろうと思いました。

4 直接会って話しませんか？

横浜市立南が丘中学校 2年 安積 柊

今はスマホなどの電子機器を通して、簡単に連絡できるようになった。これはとても便利なことだと思う。離れている人とも、気軽に話せることは確かに嬉しい。だが、私は最近の人々は、電話やメッセージアプリなどにあまりにも頼りすぎではないかと感じるのだ。

先日、友達が学校を休んでいたのので、心配した私は、SNSを通して、「無理しないでね」と送った。すると相手から、「心配してくれてありがとう」とスタンプと共に届いた。翌日、友達は学校に来たが、「ありがとう」と言われたのはメッセージ内だけで、相手が本当に自分自身に感謝を伝えようとしてくれているのかが感じにくく、悲しかった。決して相手を疑っているわけではない。きっと、心から「ありがとう」と思ってくれているのだと信じたい。だが、直接言われる方が間違いなく、記憶に残りやすく自然と、相手も私も笑顔になれると思う。そして、そんな相手をこれからも大切にしたいと思うし、仲良くしたいなど感じるだろう。伝えられた言葉は同じでも、その時の表情、声

音、仕草、振る舞い。それらを、自分の目で感じることで、相手の長所にもたくさん気づくことができると思う。

もちろん、相手と自分の居る場所が遠ければ、直接会うことは難しいかもしれない。私も遠くに住んでいる人とは、メールやSNSを利用することも多い。メッセージアプリはあくまでも連絡手段であり、顔が見えないので真意のほどは伝わらない。にも関わらず、メッセージで「ありがとう」と言ったら、送った相手に自分の感謝の気持ちを伝えられたと勘違いしてしまいがちだ。だからこそ、自分と相手との意思疎通が難しくなり、メッセージアプリなどによるいじめが増えているのではないだろうか。直接話していれば、互いの表情を目の当たりにしているので、不用意に相手の心を深く傷つけてしまうことは減ると思う。だが、手書きの文字ではなく、画面上に映し出された言葉だけでは、相手、自分の思いは伝わりにくいと思うのだ。だからこそ、相手に心から感謝や謝罪の気持ちを伝えたい時は、直接会って、顔を合わせて、相手の目を見て、「ありがとう」や「ごめんなさい」と言うことが、人としてのマナーではないだろうか。

マナーは、別に守らなくても罰はないし、法律に違反するわけでもない。だが、多くの人々がマナーを守ることは、人との付き合い方において良い影響を与え、その広がりにより豊かな社会につながる、第一歩になると考える。だから私は、自分の気持ちを相手にしっかり伝えたい時は、直接会って話したいと思う。

最後にこの文章を読んでいる人に伝えたい。「直接会って、話しませんか？」

5 誰もが快適には難しい

横浜市立永田中学校 2年 爲ヶ井 優香

そもそもルールというのは誰が決めたことなのだろう。今の時代はどこに行っても、どの国に行っても必ずルールがあるといえるだろう。だがそのルールを誰が決めどんな思いがあるかなど、考える人はいないだろう。

以前、学校の授業でルールとマナーについて学んだ。例えば公園の管理人は誰もが快適に過ごせる公園を望んでいるとする。そこに大学で音楽サークルに入っている人達が練習しに来た。周りの公園では近所の人にうるさいから他のところでやってと言われ、この公園に来たと言う。だがこの公園でもうるさいというクレームが来たとする。この時あなたならどうするかというのが質問だった。この公園にはルールがない。この公園のルールは意見やクレームなどをいろいろ考え、管理人が決めることができる。あなたが管理人だったらどうするか。私は最初、大学のサークルに入っている人がこの公園を出ていけばよいと思った。だが班のみんなで話し合ったときに班のメンバーの一人が「公園の管理人さんは誰もが快適に過ごせる公園を望んでいる。大学生の人達はこの公園で練習するのが快適なんじゃないかな。」と言っていた。この意見を聞いたとき、誰もが快適に過ごすというのはとても難しいことだと感じた。快適に過ごすことが難しいのなら、快適に近い公園を目指せば良いと思った。快適に近い公園というのは、少し不満はたまるが、過ごしやすい公園のことだ。何もかもが完璧ということは難しいため、それに近いことをすればよいという発想になった。

これらのことから、ルールを決めるのには多くの人の想いや意見を理解し、その町にあった最適のルールが作られている。そのルールを作った人の想いを知らずに破るのはダメだと思う。

6 スマホとの距離

横浜市立永田中学校 3年 松村 芽依

もう1時間たったんだ。

私は毎日スマホをダラダラと見てしまい、あっという間に時間が過ぎてしまう。

受験生であり、叶えたい夢があるので有効的に使う時は使う。必要の無い時は手元に置かないようにする事を心がけた。

まずは夜の22時半から朝の7時の間は見ないようにするというルールを決めた。寝る直前までスマホをしてしまっていたが、寝るまでに時間がかかってしまったり、深い睡眠をとる事ができなかった。

最近是我の入っている保健委員会でも良い睡眠について調査していて、スマホから出るブルーライトによって脳が興奮してしまったり、目が悪くなってしまおうというデメリットも分かった。

なので寝る直前までスマホを見るのではなく、30分前には置いて暗記系の勉強もやってみた。

もう一つはつねにスマホを手元に置かず、チェックするタイミングを決めた。

手元に置いてしまうと、通知が来たときに毎回確認してしまったり、用が無いのにインスタやラインなどを見てしまうからである。チェックするタイミングは、学校に行く前、学校から帰ってきた後、寝る30分前の22時から22時半までの3回に決めた。

この二つのルールを決めることで、必要以上にスマホを見る事がなく、受験生として勉強に時間をかける事ができる。

そして、夢を叶えるためにもスマホという発信できる機械を使って、ルールを決めながら周りの人との交流も更に深めて行きたい。

今、自分に必要な情報や手段を見きわめながら上手くスマホを利用していき、スマホとの距離を考えたい。

7 ごみ出しのルール

横浜市立永田中学校 3年 森田 まりも

先月、私の住んでいるマンションのごみ捨て場に金属製のごみストッカーと防犯カメラが設置されました。話を聴くと以前から回収できない状態のごみの不法投棄に困ってしまい、仕方がなく設置したそうです。それから1か月经ちましたが不法投棄はありませんでした。以前は分別を守らない人や回収する曜日を守らない人がいましたが、現在はほとんど見かけなくなりました。やはり

防犯カメラで抑止力の効果があったのだと思います。ということは不法投棄はしてはいけない事だと分かっていたけれど、やってしまっていたことを裏付けているのではないかと思います。興味があったので、1か月くらい夜の犬の散歩の際に近所の15か所くらいのごみ収集場所を観察してみました。すると、警告の張り紙や防犯カメラ、センサーライトがある場所やごみ収集ボックスが設置されているごみ収集場所は、前日からごみを出す人や不法投棄はほとんど見かけませんでした。地面に直接ごみを置いてネットのみ設置している場所では前日からごみを出している人が複数見られました。また、近くのマンションのごみ置き場はいつも汚れていて仕分けされないごみで溢れかえっていました。さらに回収不能な不法投棄が置かれているごみ置き場では1か月後さらに増えていました。このことから何も対策していないごみ収集場所は前日からごみを出す人や不法投棄をする人が多くなりやすいと感じました。なぜ、ごみ出しのルールが守れないのでしょうか。夏は特に生ごみから異臭がしたり害虫などが発生したりするので前日に出すのは止めてもらいたいです。放火の危険性もあります。不法投棄は罰則もあるので、罪悪感をもっている人が多いと思いますが、生ごみを前日に出す人や分別しない人や恐らく周囲に迷惑をかけていることを自覚していないのではないかと思います。歩きたばこやポイ捨ても同じです。非喫煙者から見たら前を歩く人の煙はとても迷惑な行為です。火を消さないまま投げ捨てる人も同様です。なぜそれが分からないのでしょうか。ルールとは何のためにあるのか、今一度考えてもらいたいです。一部の大人がそのような行動をしているということを知っている子供は見ています。見られているかもしれないから止めるのではなく、してはいけないことだという認識をもつことが大切だと思います。このままでは結局罰則を厳しくしたり防犯カメラに頼らなくてはならなくなってしまうと思います。そんな窮屈な世の中になってほしくはありません。一人一人がルールを守りさえすればいいのだと思います。それがそんなに難しいことだとは思いません。私たちは道徳を学び、やがて大人になります。私は子供達の手本になれるような道徳心のある大人になりたいと思います。

8 薬物は人生の終わり

横浜市立平楽中学校 3年 鈴木 想

みなさんはこんな言葉を聞いたことありますか？「覚せい剤」やめますか、それとも「人間」やめますか。という一昔前に放送していたCMの言葉です。これは覚せい剤と人生を天秤にかけている、それくらい覚醒は恐ろしいものだというメッセージが込められています。例えば、覚せい剤を使用してしまうとどんなことが待っているのでしょうか。気になって調べてみました。

まず覚せい剤を使うと、交感神経というものが強く刺激され、大きな快感を得ることができます。ここまで聞くと幸せになれる薬？と思うかもしれませんが、ですが得られる快感はたったの一瞬です。その後には想像を絶する恐ろしいものが待っているのです。例えば、「人に追いかけられる、囲まれている」「天井裏から話し声がする」などの幻覚・幻聴・被害妄想からなる強い不安が生じます。過去にはその状態で車を運転して事故を起こしてしまったケースも少なくありません。この不安から「逃げたい、またあの快感を」と二度、三度と使用してしまう人が後を絶えません。使用する年

年齢層はさまざまで、若者、御年寄、意外かもしれませんが、一般の主婦も使用したりと幅広いです。

よく「一回だけなら大丈夫」と使用する人がいますが、私は誰も一回だけしか使用したことないという人はいないと思います。だから手を出したらおしまいなのです。どんな理由で手を出してしまったかは分かりませんが、もし、薦められたりだとか、脅してきたりだとしたら大切なのは、それを断わる勇気です。自分を守れるのは自分しかいないんです。薬物に手を出す人が減ることを願います。

中学生・高校生・一般の部

テーマ3 自由課題

1 自分らしく輝きたい

横浜市立共進中学校1年 石渡 凛

私は、よく一人称が「僕」や「俺」に、なることが、よくあります。その時に友達が、「女の子なのに、僕とかあんまり、言わないほうが、いいよ」と言いました。その時に、なぜか、モヤモヤした経験がよくあります。言われるごとに、「一人称ぐらいわつに、好きにしても、いいのに」と思いました。

私は、恋愛対象だって、私の友達とは、ちがいます。私の周りの友達は、異性を好きになる人が多いです。あたりまえです。昔から絵本を読めば、王子さまのとなりには、お姫さまがいました。それが普通だと教わったからです。でも、私は女性も男性も、どっちも恋愛対象なんです。これをきけば、「普通じゃない」と思う人もいると思います。それは、しかたがないことです。人は、それぞれ「十人十色」。それぞれの考えをもっているんです。

同性を好きになってしまうのは、おかしいことでしょうか。恋愛対象が周りとは、ちがうのは、おかしいことでしょうか。性別に、違和感を感じるのは、「普通」ではないのでしょうか。その人には、その人の心の性別があります。

私が、自分の恋愛対象や性別に、違和感を覚えている時に興味をもったのが、ネイルやメイク、ファッション、男装などの、オシャレでした。自分らしいメイクやファッションをしたり、ピアスや、髪の毛を染めてる人を見ると、すごくキラキラしていました。「自分もそうなりたい。」だけれど、何を言ったとしても、自分がやりたいファッションをやればいい、女らしくじゃなくて自分らしさを大切にすればいいと、そう考えるようになりました。女らしくなくてもいいんです。自分らしく、自分のまんま輝ければそれでいいんです。性別なんて、関係ないんですから。

僕は、自分の性別に違和感をもっています。でも、自分自身は、好きです。時々自分が、周りとは違うから、もし、自分のことを友達に話せば、みんなはなれていくかもしれないし、いままでの関係も全部、なくなるかもしれないと思うこともあります。でも、今は、そんなにむずかしく、考えないで、自分らしさを大切にしながら生活しています。

私の将来の夢は、性別で悩んでいる人、自分に自信がない人、老若男女だれにでも、たくさんの笑顔と、勇気、希望をとどけられ、その人が、その人らしく、輝ける、そんなメイクやネイル、ファッションができるお店をひらくことです。口で言うほど、簡単ではありません。でも、自分らしさを忘れずに、いろんな人と会って、何回失敗しても、あきらめずに、夢にむかって進んでいきたいです。

2 エンジョイ ベースボールについて

横浜市立永田中学校 1年 池谷 祐真

夏の甲子園、107年ぶりに栄冠をつかみとった慶応は「エンジョイ・ベースボール」を掲げて躍動した。

これまで野球部の暗黙のルールであった、丸刈り、威圧的な上下関係、監督による厳しい指導、慶応はこういった高校野球をイメージする監修に、異を唱え、日本一の座にたどり着いた。(一部東京新聞より抜すい)

ぼくは、一生懸命ながらも苦しい時も笑顔を見せてプレーをする選手たちを自分と重ねて、“楽しむ”とはどういうことかを深く考えさせられた。

ぼくのいた少年野球チームでは、監督は厳しく、大きな存在だった。プレー中に大きな声で怒られることもあった。だが、アトランタオリンピックでキャプテンまで努めた監督のことを、ぼくは心から尊敬していたし、憧れの監督に認められたいという思いが、ぼくの一つのやる気にもなっていた。

試合ではいつも、ものすごい緊張感だった。その時の気持ちは“楽しい”というよりも、とにかく“がむしゃら”という思いだった。10打席あれば、6～7打席は失敗するというバッティングでは、どう頑張っても失敗はする。結果が出なかった時の試合では、楽しいより悔しい、悲しいことの方が多い。

それでも、ぼくが野球をつづけたのは、仲間とつないで、必死に1点をとった時、日々の練習が実り、ホームランを打った時、ボールを必死に追いかけてジャンピングキャッチして1点を防いだ時。あの時の気持ちが忘れられないからだ。そう思うと、ぼくにとってのエンジョイベースボールは、そういう必死さの中にある、仲間との一体感や自分の成功なのだと思う。

“楽しい”という言葉の辞書で調べると、満ちたりていて、ゆかいな気持ち、と書いてある。楽しいという気持ちでいえば、友だちと遊んでいる時、ゲームをしている時も楽しい。でも、ぼくが経験した野球で感じられる楽しさは、また全くちがうものだと思う。

ただただ監督やコーチが優しくて、練習も楽なものだったら、やはり試合で本当の楽しさを味わうことはむずかしいと思う。

本当の意味で、楽しさを味わうために必要なものってなんだろう。それは野球に限らずぼくたちの生活でも大きなテーマのような気がする。仲間がいて、本気になりながらも、えられた達成感や充実感。ぼくはこれから、どのくらい味わうことができるだろう。

古い考えだけにとらわれず、本当の意味での野球の楽しさを考えさせてくれた甲子園の先輩たち。ぼくはこれからも“エンジョイベースボール”をとことん追求していきたい。

3 将来の夢

横浜市立永田中学校 1年 柴崎 伊央

私は将来、外国の文化にたくさんふれ合い、外国と関われる仕事につきたいです。そのためには、英語の勉強をたくさんしたり、今の外国状況を知ったりしておくことが大切だと思います。今の外国では自由が認められていなかったり、性別や人種で差別されてしまったりする国があります。だから私は、外国と関わり、そのような文化や差別を無くしていきたいです。

私は、5さいのころから英語を習っています。昔は、友達がやっているからという理由で楽しくやっていた。しかし、ある時英語の先生から「英語検定をやってみない。」と言われ、テストに向けて勉強するようになりました。すると、今までよりも英語に向き合うようになっていきました。今では、英検3級を取ることができるようになりました。英語をしゃべれるようになってくると外国人の先生と英会話をすることが増えてきました。英会話を毎回やっていると、先生のように外国の学校などで日本の文化や言葉を伝えていきたいと思うようになりました。今では、外国の人々と会話できるように英検1級を目指して頑張っています。

次に私は、今外国がどのような状況にあるか調べてみました。すると、アメリカ合衆国などのたくさんの国の人々が住んでいる国では、はだの色などで差別されてしまうことがわかりました。さらに調べてみると、そのような人種差別でなくなってしまった人がいると知りました。また、イランという国では、自由が認められていません。イランに住む女性は髪を外に見せることを禁止されているので、少しでも外で髪を出していると警察につかまってしまうと知りました。そして、日本でも差別があります。それは、性別の差別です。日本では昔から女性は働かず家で家事や子育てをするべきだという考え方があります。これも差別のうちの1つだと私は思います。また、私がかつと問題だと思うのは、同じ性別の人同士で結こんすることができないということです。私は、このようなことを知ってさらにそのような差別や文化、考え方を無くしていきたいと思いました。

私は、今まで自分がやってきた英会話教室で学んだ英語の力をいかして、人種差別や性別での差別がある国や、自由が認められていなかったりする国の文化や差別を無くしていきたいです。また、外国の良い文化を取り入れ、日本の昔からある差別的な考えも変えていきたいです。

4 私と楽器

横浜市立永田中学校 1年 山本 彩寧

私はこれまでいろんな楽器をやってきました。小さい頃は母にピアノをやってほしいと言われ、習いはじめました。小学校の頃も授業で鉄琴や木琴、リコーダーなどたくさんの楽器とふれあいました。しかし、すべての楽器において今まで自分から進んでやりたいと思ったことはありませんでした。その後、中学に入学し、吹奏楽部の合奏を聞く機会がありました。そこで初めて音楽には人を笑顔にし、心から楽しませる力があることに気づきました。私もこんな合奏をして、人を笑顔に

したいと思い、吹奏楽部の入部を決めました。入部後、担当楽器を決める際、クラリネットの音色が一番好きだったためクラリネットで希望を出しましたが、実際にはオーボエに決まってしまう、とてもガッカリしました。なぜなら、オーボエの音色は高く、他の楽器と演奏されると、他の楽器の音の方が主張が強く響くからです。

8月19日、私の地元で行われている横浜みなみ夏祭りに吹奏楽部として6曲合奏しました。私たちの合奏を聴いて、拍手をしてくれる人や、音に合わせて楽しそうに動いてくれる人がたくさんいるのを見て、とても嬉しくなりました。そしてそこで初めてオーボエを演奏していて良かったなと思いました。なぜなら、楽器一つ一つにはそれぞれ違う音色があり、その違いと多様性こそが楽器の良さであり、人の心に響く合奏を作りあげていると気づいたからです。この経験を通して、楽器の多様性の重要さに気づき、これからもオーボエを練習し、後輩や演奏を聴きに来てくれるお客さんにオーボエにしかない良さ、オーボエらしさを伝えていけるように頑張りたいと思いました。

また、もう一つこの夏祭りでの演奏を通して気付いたことがあります。それは、多様性は楽器や演奏だけにおいて重要なのではなく、人間関係や社会においても重要だということです。ときには友達との考え方や価値観の違いが原因でケンカや行き違いが生じることもありますが、楽器の違いが美しい合奏を作り上げるのと同じく、人間の違いも美しい社会を作り上げるのだと思いました。

5 私の喜び

横浜市立平楽中学校1年 照井 希々華

私は今年の4月、中学に入学した。新しい生活を送る中で、私には一つキラキラ光る目的があった。それはソフトテニス部に入って思いっきりテニスをしたいということ。

今までの習い事の中で、ピアノを幼稚園から始め、小学1年生で体操、小学3年生で体操を辞める代わりに硬式テニスを習った。なぜテニスかというと、テレビでテニスのニュースを見て、「かっこいい。やってみたい。」

と思った。ラケットを持ってボールに合わせて打つ感覚が忘れられなかった。私の中では一番楽しかった記憶しかない。テニスは週1回の1時間だけだったが、ボールを打つ感覚がなかなかつかめず、公園で何度も練習をしていた。当たりや、強さによって大きく飛んだり、低め、上すぎなど、研究しながら打つのがとにかく楽しかった。しかし、入って1年経たないくらいにあの出来事が起きた。それは新型コロナウイルスによる緊急事態宣言だった。学校も閉鎖され、習い事さえも全く出来ない状況だった。公園への外出も禁止で、あんなに好きだったテニスが出来ず、とても悲しくなった。その後スクールが無くなった為、テニスをする場を失ってしまった。

そんな時、唯一出来る習い事がピアノとそろばんだった。4年生になっていたのだから、そこからそろばんが出来るか不安だったけど、外で体を動かさない代わりに、自分がどれだけ集中して打ち込んで頑張れるのか、自分との勝負だった。そのおかげで、5年生で珠算の段を取得する事が出来、私の達成感へと繋がった。

でも、テニスを途中で辞めざるを得なかったのは、私の心の中でぽっかり穴が空いて悔いが残り、

どうしても埋める事が出来なかった。

6年生になり、中学の見学でソフトテニス部が有る事を知った。それから半年間は中学に入って思いっきりテニスが出来るという希望を持てた。家族にも相談した。始めは運動部だから勉強との両立は大変だと、賛成されなかった。でも、塾に行って勉強を頑張るし、生活面で家事を協力したり、自立する様に動く決め、中学入学前から準備をしてきた。その甲斐あって、なんとか両立出来ていると思っている。親から見たら心配し、納得していない様子だ。3年間悔いの残らない中学校生活にしていきたいと思う。今は、コーチや顧問に教わりながらプレーしている。決して上手ではないが、沢山練習して上達したいと思っている。試合でも、勝ちたい。今はとにかくテニスが出来て、とても毎日が充実している。それが私の喜び。

6 私だけの時間

横浜市立平楽中学校 1年 堀籠 翼

この春から中学生になり、学校から家までの距離が小学校よりも少し長くなった。そして、距離が変わっただけでなく、登下校の様子や気持ちも変わった。まず登校するとき、小学生のころは登校班が集まって学校に行っていたが、中学生になってからは、友達と約束をして登校するようになった。そして、一番変わったのは学校からの帰り道だ。小学生のころは、近所の友達といつも楽しくおしゃべりしながら帰っていた。たまに一人で帰ることになったときには、さみしくてダッシュで帰っていた。だが、中学生になってからはその一人で帰る時間も少しずつ新鮮で楽しいなど感じるようになった。

中学生になってからは同じ方面に帰る子も少なくなり、一人で帰ることも多くなっていた。初めは、一人で帰るのに慣れていなくていつもダッシュで帰ったり、遠回りして友達と一緒に帰ったりしていた。だが、部活動が始まってから帰る時間も遅くなり、身体も疲れていて走る気力もないし、遠回りする時間もなくなっていた。そんなある日、ゆっくり帰ってみることにした。ゆっくり歩いてみるといろいろな発見があった。私の中学校は、坂の上にあるので空や街がよく見える。同じ時間でも空が明るく感じたり、入道雲をみつけて「夏がきたな。」と感じたりした。夕焼けにそまる空や街もきれいだ。そんな風景をながめながら、その日の出来事を振り返ったりする時間ができた。学校で失敗したことを思い出して反省したり、楽しかったことを思い出して明日が楽しみになったりしていた。そんな一人で自分のことを考える大切な時間になった。

このように、自分だけの時間も大切なのではないかと思った。もちろん友達とその日にあった話をしながら帰るのもとても楽しいし、大切な思い出になると私は思う。ただ、一人でいる時間がさみしいとかつまらないと感じる時間ではなく、一日をふりかえって頭の中を整理したり、新しい発見をしたりする意味のある時間になった。こうして、一つ気づけたことも中学生になってからの私の成長の一つなのだと思う。中学校生活の3年間で身体だけでなく、心の成長にも気づけるようにがんばりたい。

7 小さな幸せ

横浜市立蒔田中学校 1年 乾 沙綺

私は6年生の時のクラスを思い返すと、とても幸せな気持ちになります。

進級して、初めてクラス表を見た時は仲の良い友達があまりいなかったのが不安でした。そこから学級目標が決まり同じクラスの子と仲良くなれ、とても速く時間が過ぎました。

卒業3か月前、私は3人の友達と、自分達のクラスに向けてのサプライズ動画を作り始めました。周りの先生方にも協力してもらい、イラスト、写真などを使って作りました。

放課後は予定が空いている人だけでも、ラインや通話をし、休みの日には何時間も話し合いました。卒業間近なので、学級イベントや受験などで忙しい中、3人の子は諦めずに最後まで一緒に製作してくれました。

私のクラスは卒業約1週間前に学級開鎖になってしまいました。とても悲しい気持ち半分、残りの時間を後悔のないよう思う存分に使いました。

動画を作っていく中で、修学旅行や運動会などの大きな行事や、担任の先生が普段撮ってくれていた何気ないクラスの写真など、その時には特に何とも思わなかった事が、とても幸せな事だったんだなと思いました。

卒業式当日、私は無事、2年間お世話になった担任の先生に名前も呼ばれ、卒業証書を受け取り、小学校を卒業する事ができました。

卒業証書授与式が終わり、最後の学活の時間では、長い間作ってきたサプライズ動画をクラスの皆と先生に見せる事ができました。先生も動画を作られていて、私達が授与式で教室に居ない間に、一人一人の机の中には、先生から本人に向けた手紙が入っていました。最初は不安だった小学校最高学年としての1年、私は心から、このクラスになれて良かったと思いました。

自分の小学校の友達との最後の修学旅行、私は実行委員として活動しました。皆で完璧に仕上げた最後の運動会でのソーラン節、悔しさが強く残った選抜リレー、どのクラスよりも多くの時間を使い、たくさん話し合って決めた学級目標。委員会では2年変わらず同じのに入り、最後まで楽しく取り組みました。そんな「最後」が多い1年間、上手くできない事もたくさんありましたが、皆で一生懸命取り組んだ行事などの楽しい思い出は今では宝物です。

先程にも述べましたように、当時は何とも無い出来事でも、特別で、幸せな事で、今思い返すと私はとても恵まれているなと思いました。

6年生、小学校生活最後のクラスは私にとって「最高」で「最強」です!!

これから生きていく上で、小さな幸せにも気づけるような人になりたいと思いました。

そしていつかまた、6年生の時、同じクラスだった子達と集まって、楽しかった思い出や笑える話をたくさんしたいです。

8 ニュースから学んだこと

横浜市立六ツ川中学校 1年 大嶋 翼心

ニュースで見た「大学生違法薬物疑惑」。

1つの行動で身の回りの人達にこんなに多くの被害を与えるほど大きなことになるということに私は気づいていませんでした。

小学生の頃、「連帯責任」という言葉を知りましたが、それほどその言葉の意味を考えたことはありませんでした。

自分のした行動1つで同じ大学、同じ部活の人たちがネットなどで色々な事を言われてしまいます。例えば、就職するときに同じ大学だから、同じ部活だからという理由で、嫌なイメージで見られてしまいます。同じ部活の人は、大切な大会にも出られなくなってしまうかもしれません。

私は吹奏楽部に入っていて、先日コンクールにも参加しました。もし「連帯責任」で部活自体が停止することになったり、コンクールにも出場できなくなったりしたら、コンクールのために頑張っていたものが全部崩れてしまいます。だれかが問題を起こしてしまうと、みんなが嫌な気持ちになります。だからこそ、よく考えてから行動することが大切だと思いました。

「連帯責任」という言葉だけを聞くと、悪いことをしたらみんなで責任をとるというあまりいいイメージではありません。でも、「連帯責任」という言葉があるおかげで、みんなに迷惑をかけないように頑張ろうというモチベーションにも繋がっていると思います。

兄たちは運動部に所属していたので、誰かが遅刻をするとみんなでグラウンドを走らなければいけないとよく話していました。その時は、なんでだろうと思っていましたが、それがあのおかげで迷惑を掛けられないと、よく走って学校に行っていました。

わたしの所属する吹奏楽部では「連帯責任」を言われることはありませんが、日々の部活動の中で、みんなで作るから、みんながいるからこそ頑張ろうと思えるのだなども感じることはたくさんあります。例えば、1人でやるとなったら、上手く出来ずにやる気もせず、もういやと投げ出してしまったりかもしれません。でも、みんなで、チームでやるとなったら、自分のせいで失敗するかもしれないという気持ちから、ミスしないように練習しようという気持ちになれることにも気づきました。

普段から、気づかないところでたくさんの人に支えられているということを改めて感じました。自分の行動がたくさんの人に影響を与えてしまうことにもなるので、自分の日々の行動に今まで以上に責任を持ちたいなと思います。

9 私の夢

横浜市立六ツ川中学校 1年 村田 菜桜

私の将来の夢は図書館司書になることだ。それを志すようになった理由はある人との出会いにある。その人は私の小学校の図書館司書の先生で、私は先生が大好きだった。なぜなら先生はとてもやさしく、特技を図書室の来館人数を増すことに生かしたりする努力をしていた人だからだ。さらに先生が私にすすめてくれる本は私の好みに合っていてとても面白く、その本を読んだときの感想を共感しながら聞いてくれた。もともと私は本に関わる仕事をしたいと思っていた。しかし、本に関わる仕事と言っても書店員、作家、編集者など多くの種類がある。そう思っていたときに出会ったのがこの先生だ。毎日図書室に通っているうちに私はこの人のようになりたいと思い、次第に図書館司書という職業に興味を持つようになった。その後図書館司書になる方法や必要な知識についてしらべて私になりたいと思う職業はこれだと思えるようになった。しかしどんなに調べてもこの職業のどんな所が大変なのか、具体的にどんな事をするのかまでは分からなかった。そして今年の夏あるポスターをみた私はこの職業について知るために行動を起こすことにした。図書館の職場体験だ。最初、図書館でポスターを見たときは驚いたのだが何事も行動あるのみだと思い迷わず応募した。そして職場体験当日、図書館に向かった私は驚きと発見ばかりの体験をした。まず驚いたことだが私が思っていた以上に力仕事で、重い本を図書館別にわけて置いたり、本をあるべき位置に戻したりなどの力を使う作業がたくさんあった。二つ目は作業の説明や手本を見せてくれた司書さんたちの手際の良さに驚いた。予約された本を探す作業をしたとき、自分は30分かけてやっと4冊を見つけられたのを司書さんは10分位で6冊位の本を見つけられるそうだ。今まで調べた物の知識でどんな作業をするのかは知っていた。しかし見るのとは違い、実際にやってみると思っていたものとは違い、難しかった。このようにいろんな体験をできて自分が思っていた以上の結果が得られた。

この体験を経て、私は今まで以上に図書館司書になりたいと思った。私がした作業は仕事のうちのほんの一部で実際にしたらもっと大変なことや驚くことがあると思う。しかし私の憧れている先生のようになるためにも私は自分のやりたい職業に就くため努力をし続けたいと思う。

10 本の大切さ

横浜市立共進中学校 2年 市本 ひなた

本屋、それは私の好きな店だ。漫画や小説雑誌などが置いてあるバラエティに富んだ店だ。

だが最近、本屋が少なくなってきたような気がする。まだ私が小さいときに通っていた本屋、気に入って通った本屋。そんな店が無くなってきたのだ。ひまつぶしから学習に使える本にふれる機会が少なくなっていて私はかなしい。きがるに入れるような店ではなくなってきたと思う。

アプリや電子書籍などで見れるものはある。だがにおいやめくるときの手ざわりなどが好きなの

だ。

つまり、私が言いたいことは、南区に新しい本屋がほしい、そういうことだ。そのためにはもっとたくさん町の人が本を読まなくてはならない。

なので学校では夏休み中、本が5冊かりられるイベントなどにさんかするなど、自分なりに本をたくさん読む工夫をしている。

大人になると、時間が無くてあまり本を読めないとお母さんが言っていた。学生のうちにたくさん読まないともったいないと私は思う。漢字は書けないが、読めるようになったのは本で読む練習をしたので、音読などで自信を持ってしゃべれるようになったような気がする。このように本は、想像力を高め、漢字の勉強になったりと、様々な良いところがある。本を読む機会を増やしてほしい。

お気に入りの作家や、本を見つけたときはなんとも言えない喜びがある。みなさんも本を読んでみるとはまるかもしれない。

ぜひ本を読んでほしい。

11 人間は忙しいほど頑張れる

横浜市立共進中学校 2年 岩瀬 凜花子

「みんな忙しいんだよ、誰かが一生懸命に頑張る姿を見ると私も頑張れる。」これは私の母の口癖だ。私の家は5人家族で両親と兄とおじいちゃんがいる。みんなで協力して床屋を営業している。“みんなで”というのは自分に出来る事をしてお手伝いをするのだ。

お店で1番偉いおじいちゃんはもう80歳を超えているが元気に働いている。お店が休みの時は色々な所に写真を撮りに行っている。また、撮った写真を見て水彩で絵を描いている。私はそんなすばらしい趣味を持ったおじいちゃんが大好きだ。私にもおじいちゃんの血が流れているからか、絵を描くことは好きだ。でも最近は、自分のしたい事をする時間が無いということに気がついた。忙しいから。時間が無いから。そんな事は言い訳にしか聞こえない。私の家族だって一人一人、やりたい事がある。それを少し我慢して“いえ”のために働いてくれている。そんな親を知っていて自分がしたいことをするなんて勝手すぎると私は思う。

毎日ご飯が食べられる。お風呂に入れる。お湯が出る。学校に行ける。習い事に行ける。欲しいペンが買える。自分にとってあたりまえに感じることは裏で一生懸命に親が働いてくれているおかげでできている。

私だけではなく特に中学生は反抗期真っ最中で、こんなことに気づいていないだろう。一瞬だけでも考えるべきだと思う。ゲームをしている時間、携帯をいじっている時間、すべてを減らせとは言わないが裏で頑張っている人がいることを忘れないでほしい。そして親に対する日頃の感謝は必ずすべきだ。

手伝いだって、仕事だって、みんなが見てるとは限らないし、気づいてくれるかも分からない。努力にするのではなく習慣にすれば、辛くはないだろう。全部を100%でやりきらなくていい。70%で充分だと私は思う。そうすれば自分の好きなこと、やりたいことをする“じかん”が増える

だろう。

「忙しいと思ったとき、自分だけではない、知らない人が知らないところで一緒に頑張っている。」

12 集合場所までの道

横浜市立共進中学校2年 柏崎 夕璃

そろりそろりと歩く私はものすごく緊張している。毎朝通らなければいけないその道は、幼い私にとって苦痛でしかなかった。家から集団登校の集合場所に向かうまでの道、それはたくさんのご近所さんに遭遇してしまい、「アイサツ」をされる。

この頃の私は、挨拶がとても苦手だった。相手との距離、声の大きさ、お辞儀の角度、姿勢、何が最適解なのか分からなくて。できるだけその挨拶をしなくて済むように願いながら毎朝その道を通っていた。一度も遭遇しなかった日はほっとするし、何度も遭遇すると逃げ出したくなってしまふ。

私がここまで挨拶を苦手と思うのには、親の影響が大きいと思う。両親は挨拶には厳しく、「ご近所さんに会ったら必ず挨拶してね。」と言われていた。それはこの頃の私にとって大きな重荷であり、プレッシャーを感じていた。たかが挨拶と思うかもしれないが、たかが挨拶、されど挨拶だ。

そんなある日、私の考え方を変える転機が訪れた。いつものように、ご近所さんがいないタイミングを見計らって家を出ると、丁度お隣さんに会ってしまった。私は頑張って、

「おはようございます。」

と言う。すると、

「おはよう。いつも挨拶して偉いね。」

と言われた。驚いた。いつもその場をやり過ごす事しか考えていなかったため、客観的に見た、「ご近所さんにちゃんと挨拶している自分」の姿に気付いていなかったのだ。完璧な挨拶ではなく、挨拶をしようとする意志が何より大切なのだと学んだ。その時から少し自信がついて、挨拶への苦手意識が少し減った。今ではご近所さんにも普通に挨拶できているし、親しき中にも礼儀あり、ということ友達にもおはようと言っている。

挨拶が大切だというのは万国共通で、全世界の常識である。私は挨拶を、人とのコミュニケーションを円滑に進めるためのツールだと考えている。多少コミュニケーション能力に長けてなくとも、そのツールを得れば、考え方だけでなく生き方も変わってくる。挨拶されずに素通りされたら、無愛想だ、とか常識が無いと思われてしまう。しかし、きちんと目を見て挨拶されただけでも、常識があるのだなど好印象になる。しかも、挨拶で会話を始めることもできる。挨拶をしたことだけで損は生まれまいだろう。完璧ではなくとも、挨拶をしようという意志をまず持つことが大切なのだ。

13 バドミントン

横浜市立共進中学校 2年 兪 虹艶

「お前はなぜバドミントンをするのか？」

「私は…多分バドミントンが好き。」

その日、友達から「バドミントンできる？一緒にバドミントンしない？」と誘われて、「少し。」と言った。帰り道、バドミントンぐらい、すぐにできるはずだ、と思っていた。

このことを家族に話すと、家族は信じられないというような目で私を見て、姉は「あなたはそんなに運動が嫌いなのに、どうしてバドミントンを続けることができるか？」と言った。「私をそんな人と思うか！」彼らはうなずいた。その決意を見てもらいたくて、私は直接100円ショップでラケットとシャトルを買った。姉にバドミントンを教えてほしいとお願いしたら、迷わず同意してくれた。私は姉の目を見て、言いたいことを飲み込み、力なくため息をついた。

それからは暇さえあればバドミントンをしていた。最初はシャトルが打てなかったが、だんだん姉と同点にまでなった。姉も、「へえ、こんなにがんばって、諦めずに続けているとは思わなかった。」と言うようになった。

徐々に友達とバドミントンをするようになった。色々な人とプレーをし、たくさんの技を学んだ。バドミントンが好きになり、バドミントンに惹きつけられた。勝ったときの楽しさ、負けたくない気持ち、全部好きだ。

中学校に進学してからは、部活動について知り、バドミントン部に入部すると決めた。しかし、部費が1万円であることを知った家族は、無料の美術部にしたらと言った。家族は私に中学校で勉強することを中心と説得して、特に私の日本語はあまり上手ではないので、数年後にはみんなの進歩についていけないでしょう。バドミントンにただ興味があるだけで、たくさんのお金を使う必要がある？バドミントン部に行きたいけど、言われていることも本当だ。私は何をすべきか。

それから、そのことを友達に話すと、「後悔しないなら自分の考え通りにやればいい」と言われ、私は少し頭を下げて黙っていた。友達は私を見て「あなたはなぜバドミントンをするのか？」と言った。「私は…多分バドミントンが好き。」彼女は私の肩を叩いて去って行った。

帰り道、私はずっと考えていた。たとえそれが、自分は何かを簡単に諦めないことを証明するためであっても、それはすでに証明されているのに、なぜ私はバドミントンを続けるのか？

私は良い球を打ちたい、難しい球を楽に捕りたい。勝ったときの楽しさ、負けたくない気持ちが好き、人と一緒にバドミントンをするのが好き、より強くなりたい。私はバドミントンが好きだ！大好きだ！

「あなたはなぜバドミントンをするのか？」

「それは、もちろんバドミントンが大好きだからだ！」

14 私の恩師について

横浜市立永田中学校 2年 飯畑 優

私には今でも心から尊敬している先生がいる。その先生と出会ったのは私が小学6年生の時だ。始業式、2学年の1組から順に今年のクラス担任の先生が、全校の前で挨拶をしていく。その時私は今年の先生が誰になるか不安で周りの声は聞こえなかった。そうしてる内に6学年担当の先生の番になった。1組、2組…と進んでいき遂に私のクラス、3組担当の先生の番がきた。その先生は堂々とした態度で前に出て、張りのある声で自信で満ち溢れた喋り方で挨拶をした。そんな先生を見た私は自分はそう喋れないからすごいなと思った。そうして6学年がスタートしクラスにも慣れてきた時、私は友達と意見の食い違いで喧嘩した。最初は時間が解決してくれると思っていたがそれは難しいと思ったため恐る恐る先生に相談することにした。いつも厳しいので大丈夫か不安だったが先生は親身に私の話を聞いて、友達とまた喋れるようになるまでアドバイスをしてくれたりした。その時から私は先生に対し「ただ厳しい先生」ではなく「悪いことをしたらしっかり指摘してくれる先生」という認識へと変わった。

先生と関わった1年間で特に記憶に残っていることが2つある。1つ目は国語の発表の時の事だ。授業の内容は好きな本を紹介するというものだった。その時先生が何度呼びかけても誰も手を挙げなくて、先生がいつもより厳しく怒った。それでも誰も手を挙げなく、このままだと時間が過ぎていくだけなので私が手を挙げ発表することになった。しかし、いざ前に立つと怖くて泣きかけてしまった。そんな私を見た先生が私の代わりに発表資料を読み上げてくれた。その時発表なのにちゃんと出来なかったという申し訳なさで胸がいっぱいだったのだが、授業終わりに先生が「勇気をもって発表してくれてありがとう。」と私に言ってくれた。それで私は勇気を持つ大切さを知れた。

2つ目は委員会の事で、先生は私の委員会担当の先生ではないのに手助けなどしてくれて、私がどうすべきか悩んだときはアドバイスをしてくれたり応援してくれたりした。委員会の仕事は中々難しかったけど先生のおかげでやり切れたし、自分に自信がついた。

他にも恋バナや将来についての相談を聞いてくれたり色々な話をしたりして、この1年の間で私はとても成長できたと思う。これからも先生から教わったことをしっかり活かしていきたいと思うし、先生のような悪いことをしたらしっかり指摘できる人になりたいと思う。

いつか先生に会ったら中学でのことを話したい。私にとって先生は尊敬できる大好きな恩師なのだ。

15 自分らしさを認め合う

横浜市立南中学校 2年 西岡 里桜

「女の子らしくする」とはどういうことなのだろう。私は小さいときからそう思うことが多かった。なぜなら、服装や髪型を決められた自分は自分らしくないと思っていたからだ。しかし、今の世界

では自分らしさがふつうと違くと、差別やいじめにも繋がっていくという現状がある。私は、自分らしさをお互い認め合うことが平和な世界になることに繋がっていくと思う。

私は小さい頃、青などのカッコいい色が好きだったし、ズボンの方が好きだった。しかし、まわりの人達から「女の子らしくしなさい」と言われ、自分らしさをだんだん捨てていった。まわりからどう思われるのかが怖かったからだ。だから、小学校の自己紹介での好きな色はピンク色と言っていたし、スカートを着ることの方が多かった。そして、だんだん自分が何なのか分からなくなっていった。そんな時、私のことを心配していた母に自分の思いを全て話したことで気が楽になり、安心した。

2020年の東京オリンピックで大会史上初めてトランスジェンダーの選手が出場したというニュースを見た。ウエイトリフティングの選手である、ローレル・ハバードさんは男性として生まれてきた。しかし、30代の時に、心と体の性が一致しない「性同一性障害」の診断を受け、性転換をし、女性として東京オリンピックに出場することにした。大会に出場するにあたり、不公平だと多くの批判を浴びた。しかし、それを乗り越え、大会に出場した姿は多くの人々に感動を与えた。

彼女は大会前、

「世界に合わせなくてはいけないというプレッシャーで耐え切れなくなった。」

と語っていた。自分らしさを認めてもらえず苦しい思いをしたと思う。さらに世界に合わせなくてはいけないプレッシャーで大会に出場できるかも危うい状況だったと思う。だから、東京オリンピックに出場したということは、彼女にとって、とても勇気のあることだったと思う。もし私がこのような状況に置かれていたら、プレッシャーに押し潰されていたと思う。

自分らしさを表現できるのは自分だけだが、それを相手に伝えることは、すごく勇気のいることで、難しいことだ。だからお互いが自分らしさを認めるという視点をもつことで、苦しい思いをする人が減っていくと思う。自分らしさを見せることにより、誤解や偏見が生まれることもあるかもしれない。その時は、その人の自分らしさなのだとも私も認めていきたい。

私も女の子らしい私ではなく、自分らしい私を表現していきたい。

16 第二の家

横浜市立共進中学校 3年 松元 園来

「学校行くのめんどくさい。」

「今日学校サボっちゃおうかな」

「休みにならないかな。」と思う人も多いと思います。私も中学1年生までは、そのような考えでした。

私は正直言ってやりたくも無い勉強をしになんで毎日学校に通わないといけないんだと思っていて、学校が嫌いでした。

みなさん一度くらい学校をサボったことがあるのではないのでしょうか。こんな私が学校を大好きになったきっかけでもある体験談を話します。

中1の12月の冬休みに入る前、私は友達と2人で少し遠出をしました。その日は「絶対にバレるわけない。」と思っていたし、学校もサボれてラッキーくらいに思っていました。その考え方が大きく間違っていた事に気づいたのは次の日でした。次の日、案の定バレてこっぴどく先生達に怒られました。特に、部活の顧問の先生の顔は、今までに見たことの無いような鬼のような顔で、改めてやってはいけないことをしたんだと思った瞬間でした。でも、その時点ではまだ学校は嫌いでしたし、怒られてさらに嫌いになりそうだったのを覚えています。けれど、顧問が私に言った言葉が私の頭をよぎりました。

資料室に連れてかれ、一対一で話をした時、なぜかすごく優しくかったです。その顧問が言った一言。「本当は悪いことだと分かっていたけど断れなかったんだらう？」と言ってきたのです。最初は、「そんなこと思っていないし。」と思っていたけれど、実は自分ではその時気づいていなかっただけで、ものすごく不安だと思っていたようで、その言葉を言われて、つい私は泣いてしまいました。

私の学校には400人以上の生徒が通っています。そんなに人数がいる中でわざわざ私のために話す時間を作って、私のことを考えて話してくれる先生方は家族同然だと思います。

改めて考えてみると、先生は、私たちのために勉強を教えてくれて、私たちのために、たくさんなやみを聞いてくれて、私たちが、過ごしやすいような環境を作ってくれて。自分の子供ではない人のことをこんなにも大切に考えてくれているんだから、先生のために自分は何かしてあげられることは無いかと考え、「せめて学校を好きになろう。」最終的に一番先生達が嬉しいことはこれかなと思いました。

学校が嫌いな人は一度先生達が自分たちのために毎日どれだけ頑張ってくれているのかを考えてみる事が大切だと思います。

家は私にとって落ち着きやすい場所ですが、私は学校も同じくらい落ち着く場所になりました。小学校の先生が言っていた言葉を借りたいと思います。「第二の家。」

17 言葉、会話

横浜市立永田中学校 3年 加藤 佑哉

「あの時こんな風に言っとけば良かった。」こんなことを思ったことは、誰でもあるはずです。言葉は時、場所、相手といういろいろな条件をも考えなければいけないと思うと気が遠くなるが、口ベタな僕が「言葉」とその延長線上にある「会話」について考えてみた。

日本は語彙が非常に豊富な国らしい。その国の言語を90パーセント理解するには英語なら約3,000語、ドイツ語なら5,000語を知る必要があるが日本は最低1万語必要だそうだ。

ドイツの2倍である。これを見ただけで会話の中、瞬時に1万語の中から正しいと思う言葉を選んでいくこと自体、すごいことなのではないかと思う。でも、こんなことで満足してられない。言葉は発する人だけでなく、それを受け取る人がいるのだ。「人は、話し方が9割」という本があるが、あの題名の内容は理屈として合っていると思う。選ぶ言葉が綺麗なものか汚いものか。それ

だけでなく、声のトーンや速さ、面白さなどの内容、これらに注目すると、その人のことがなんとなく分かる。いや、その人の見え方が決まる。それだけ言葉は自分だけでなく、相手相手に与える影響が大きいのだ。自分の印象を変えるには、良くするには、話し方を変えなければならない。話し上手にならないといけない。でも、「話が上手い」とはどういうことなのだろうか。結論から言うと僕は、相手に伝えたい趣旨が伝わり、相手にもっと話を聞きたい。一緒に話したい。と思わせる人だと思ふ。巧みな言葉の引き出しを使って、相手に会話を終わらせたくないと思わせるのがとても上手い。聞き飽きない長さ、他を引きつけるワードセンス、話す相手をよく考えて話すことが必要なのだ。そう思うと落語家は本当にすごい職業だ。お金を払ってまでその人の話を聞きたいと思わせるのだから。だが僕達がやるのは会話なのだ。会話は落語とは違い、相手が返答しやすいかなども考えなければならない。会話はコミュニケーションだということを忘れてはいけないのだ。

「言葉は刃物なんだ」あの少年探偵のセリフである。相手のために果物を切っているつもりだった果物ナイフが相手から見たら、自分に向けられたナイフになることがあるのだ。もう分かりきっている事で、相手の事など全て分からない。どうすれば良いか分からなくなるが、相手はどう感じるか考えること自体に意味があるのだと思ふ。相手が思う完璧な言葉を選べなくても、「相手に話さなければ良かった」と思わせなければ良いのではないか。その上、元気づけられたら 100 点だろう。

このように会話は自分の主観的な見方だけではなく、相手を主観とした見方も必要だ。我が家の家訓は「言われて嫌なことは言わない」である。僕はこの言葉と今まで培った会話、この先の会話を財産としてそれを発揮し、誰かにとっての「話したい人」となれるように生きていきたい。

18 未来が私達を待っている

横浜市立永田中学校 3年 篠田 深釉

私は、大人になったら、化学を専門とする研究者になりたいと思っています。

きっかけは、授業で行われた職業調べでした。その時の私は、将来像しか持っておらず、就きたい職業は考えたことがありませんでした。私は、理科が大好きです。なので、理科の知識を学んで活かせる、夢のような仕事はないか、調べていました。そこで見つけたのが研究者でした。もともと私は、一度興味をもつと、どんどんとのめり込んでいく性格で、友達に注意されたこともありました。けれど、研究者になれば、その短所が長所になるのではないかと考えていました。

研究分野はたくさんありましたが、中でも私は、化学分野に興味をもちました。化学分野は主に、化粧品や医薬品、プラスチック製品などの、開発、研究、分析、検査を行う分野です。身近によく使うものが多く、面白そうだと最初は感じました。その時、私はとある記事を見つけました。現役で研究を行っている研究者の方のインタビュー記事です。そこには「自分の研究で人々の生活を豊かにできる、不可能を可能にできることが、研究の楽しさです。」と書いてありました。私はすごくわくわくしました。もちろん、研究者になることは大変だろうし、研究で成果を出すのも簡単ではないと思います。けれど、なれた時や、結果が出た時の達成感を想像すると、どんな壁があっ

でも、夢に向かって走り続けていけるような気がします。

私は、今年受験生で、人生の大きな分岐点に立っています。今、どのように勉強するか、どの高校を受験していくかによって、未来が大きく変わっていきます。そんな大切な選択を、中学生でするのは怖いです。でも、10 数年後の自分が後悔せず、前向きに生きていけるような選択を、できるように努力していきます。

19 私の青春

横浜市立永田中学校 3年 福島 未蘭

今は中学3年生になり、中学校生活ラストの夏休みに入った頃だ。部活も引退し、友達はみんな勉強をしているのだろうか。友達から夏休みは勉強するから遊べない、塾が忙しいと聞き、受験生になったことを実感する。それから高校はどうしようという迷いや焦りが生まれた。

私は中学校からバレーボール部に入り、3年間休むことなく取り組んでいた。いよいよ引退をかけた緊張感のある試合が始まった。冬、春と共に私の学校は「区大会優勝」「県大会出場」と良い成績を残してきた。1回戦、2回戦と順調に勝ち進み向かえた3回戦目は最も熱い戦いと言っても過言ではない、県大会出場をかけた試合だった。試合は2セット先取の3セットマッチだ。

対戦相手は、正直、聞いたこともない学校だが、私たちが試合で何度も負けたことのあるチームに勝利し、勝ち上がってきたチームだ。すると先生から、「175センチメートルの人がいるらしい。」と告げられた。先生はそこに負けたチームの先生と仲が良く、夜中に30分も電話で話したらしい。ライバルでありながらも私たちのために情報を伝えてくれていることに驚くと同時に頑張ろうという気持ちがより一層強まった。

試合前の公式練習が始まり辺りを見渡すと意識せずとも高身長の人を見つけた。見た目にも圧倒されたが、プレーを見てさらに衝撃を受けた。ネット越しに真下に打つスパイクを生で初めて見て、一気に緊張が止まらなくなった。試合開始の笛が鳴ると同時に、両チームの声が体育館に響いた。1セット目、勝利。2セット目、敗北。そして3セット目に勝った方が勝利となった。私は雰囲気をもっとでも明るくしようと色んな人に声をかけた。休憩する間もなくあっという間に試合は開始した。相手が後1点で勝つとなったとき、まだ負けていないのに、なぜか涙がこぼれそうになった。結果は敗北。試合終了の笛の声は私にとって苦痛だった。何とかしてまだ試合を続けたいと強く思った。そのまま私の中学校での部活は幕をとじた。私は数日経っても部活が終わったという実感がなく、何度も部活に行こうと勘違いをした。

中学校の部活では他校との関わり、部活のメンバーとの関わり、そして部活の楽しさと魅力について学ぶことができた。中学校に入学し、迷った末選んだバレーボール部は、今となっては私の「青春」だ。高校に入っても学生の時にしか味わうことのできない「部活」という「青春」を3年間かけてもう一度味わいたいと思った。

20 多様化される社会に思うこと

横浜市立平楽中学校 3年 甲斐 美羽

私は先日、国際平和スピーチのクラス発表会で、男女共用トイレについての考えを聞いて自分でも考えてみました。そのスピーチの内容にはとても共感しましたが、自分の考えも伝えていきたいと思いました。

そのことについて考える中で、最近そのことに関する裁判で、心と体で性別が一致していない人側が逆転勝訴をしたというニュースを見ました。正直に思ったのは性別など多様化するのはいいことだと思います。しかし、元々男性と女性でトイレを分けることで守られ防がれていた犯罪が防げなくなってしまうのであれば素直に賛成できないと思いました。男女共用トイレが実用され、男女別のトイレがなくなったとすれば、多様性は守られるかもしれません。では男女別のトイレにすることで守られている人、ものはどうなるのでしょうか。

この話題からはトイレだけでなく、銭湯などの性別で分けられているもの全てを男女共用にするという考えも思いつきませんか。生物学的な男性と女性の体では作りが違いますし筋肉量など、身体的な力の差があることは明確です。その力の差があるのに男女共用にしてしまったら分けることで守られていたものは守られますか。他に男女の差をなくすのに変えるべきものは一つもないのでしょうか。

そこで私は他に変えるべきものがないか考えてみました。例えば私たちに身近なことでは制服のネクタイやリボン、ベストなどの装飾品を統一するか廃止する、大きな規模でいえば、世間で女性が使うという印象が大きい日傘や化粧品のデザインやCMなどをジェンダーレスにするなど男女の差をなくすためにできることはたくさんあると思います。

多様化が目指される世の中で守られているものは守りつつも少数派の人も過ごしやすい世の中になれば良いと思います。

日本の未来を担う子ども達を 応援します！！

高度濾過・水処理のエンジニアリングメーカー

“水”は全地球の限りある資源。
無駄使いを無くしましょう。



日本濾水機工業株式会社

〒232-0052 横浜市南区井土ヶ谷中町 91 番地
TEL:045-712-1211



私たちは、青少年の明るい未来を応援します。



横浜南央ロータリークラブ

〒231-0011 横浜市中区太田町1-11-3

TEL・FAX 045-664-0696



横浜弘明寺商店街協同組合

人情・下町・門前町

皆様のお越しを
お待ちしております



◆イベント情報やお店の検索は公式ホームページをチェック！

弘明寺商店街

検索

Rotary



国際ロータリー第2590地区

横浜南陵ロータリークラブ



「地元の町や世界をより良くしたい」

ロータリークラブには
そんな仲間が集っています

横浜南陵ロータリークラブ

Rotary Club of Yokohama Nanryo

〒231-0015横浜市中区尾上町5-77-2(株)ネコティア内 TEL090-3225-2590 FAX045-650-1251

あたらしいを、あたりまえに

J:COM

Rotary  **横浜南ロータリークラブ**
Rotary Club of Yokohama South

2023-24年度 国際ロータリー会長 ゴードン R. マッキナリー

「世界に希望を生み出そう」

国際ロータリー第2590地区 横浜南ロータリークラブ
2023-24年度会長 鳥山 直樹

〒232-0016

横浜市南区宮元町 1-14 サンワビル 203 号室

TEL. 045-309-7962 FAX. 045-309-7972

横浜橋通商店街は とにかく忙しい！

春

満開の歌丸桜がお出迎えて大バザール

夏

情熱の歌と踊り、大人の縁日で夏フェスタ

秋

熱気溢れるお神輿に大興奮！大セール

冬

商売繁盛、お酉様からのXマス大売出し



ほんとにこんな事やってるの？来ればわかるよ！！

いきな下町 よこはまばし

横浜
橋通

「No Drug Know Drug」

薬物反対～

危険ドラッグ反対～



横浜市薬剤師会
薬物乱用防止マスコットキャラクター
ノードラくん

横浜市南区薬剤師会

南区自治会・町内会への加入のご案内

「自治会・町内会」は、一定の地域において、住民相互の親睦を図り、そこで起こる地域の福祉・環境・防犯・防災など様々な課題を解決することを目的に自主的に組織された住民団体です。
地域の絆をはぐくみ、地域で支え合う社会を作っていくために自治会・町内会へ加入しませんか？

自治会・町内会に加入をすると

- ・地震などの非常時（災害発生時等）に助け合える強い味方ができます。
- ・通学路の見守り活動、防犯パトロールなど犯罪のない安心安全なまちづくりができます。
- ・地域の清掃、ごみ集積場所の管理など、きれいで快適な居住環境のまちづくりができます。
- ・子どもから高齢者まで、家族みんなで隣近所の方と一緒に楽しめるイベントに参加できます。
- ・地域におけるいろいろな活動情報を会報誌などでいち早く知ることができます。

※自治会町内会によっては、活動していない事業もあります。

加入の申し込みは、自治会・町内会の役員などにご連絡してください。

お住まいの場所の自治会・町内会や役員などがわからない場合は、下記の申込書に必要事項をご記入の上、区役所6階62番窓口「地域振興課地域活動係」にお持ちいただくか、下記の送付先に郵送、FAX、Eメールをしてください。

南区マスコットキャラクター
みなっち



送付先

- ・〒232-0024 南区浦舟町2-33 南区役所地域振興課（南区連合町内会長連絡協議会事務局）あて
- ・FAX番号：045-341-1240
- ・Eメールアドレス：mn-chishin@city.yokohama.jp またはQRコードを読み込み「住所・氏名・連絡先」を記載して送信

※提出されました個人情報は、南区自治会・町内会への加入手続き以外には使用しません。



きりとり ✂

自治会・町内会 加入（仮）申込書

年 月 日

ふりがな	
氏名	
住所	
電話番号	

※後日、ご加入いただく自治会・町内会役員などから、加入についてのお手紙や連絡があります。



令和5年12月

編集・発行 南区青少年指導員協議会
事務局 横浜市南区役所地域振興課内

〒232-0024 横浜市南区浦舟町2-33 TEL. 045(341)1238 FAX. 045(341)1240